

第二十五回 帝國議會 貴族院議事速記録第十四號

明治四十二年三月十三日(土曜日)

午前十時七分會議

議事日程 第十四號 明治四十二年三月十三日

午前十時開議

- 第一 男爵眞木長義君、男爵川口武定君請暇ノ件
- 第二 明治四十二年度歳入歳出總豫算案並明治四十二年度各特別會計歳入歳出豫算案 會 議(委員長報告)
- 第三 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件 會 議(委員長報告)
- 第四 明治四十一年法律第九號中改正法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第五 北海道拓殖銀行法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第六 軌道ノ抵當ニ關スル法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第七 擔保附社債信託法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第八 立木ニ關スル法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第九 外國領海水產組合法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第十 國債ノ利子所得稅免除ニ關スル法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第十一 登錄國債ノ擔保充用ニ關スル法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第十二 政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入銷却ニ關スル法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第十三 會計法中改正法律案(衆議院提出案) 第一讀會
- 第十四 民事訴訟法施行條例中改正法律案(衆議院提出案) 第一讀會
- 第十五 質屋取締法中改正法律案(衆議院提出案) 第一讀會
- 第十六 東京都制案(男爵松平正直君外五名發議) 第一讀會
- 第十七 千代田縣設置ニ關スル法律案(男爵松平正直君外五名發議) 第一讀會

- 第十八 東京都千代田縣組合法案(男爵松平正直君外五名發議) 第一讀會
- 第十九 樺太航路開始ノ請願 會 議
- 第二十 大湊鐵道速成ノ請願 會 議
- 第二十一 煙草專賣法中葉數査定ニ關スル規定廢止ノ請願 會 議
- 第二十二 廣島江津間鐵道速成ニ關スル請願 會 議
- 第二十三 小學校正教員官設鐵道無賃乘車ノ請願 會 議
- 第二十四 山陰縱貫鐵道速成ノ請願 會 議
- 第二十五 葉煙草葉數査定廢止並國立煙草試驗場設置ノ請願 會 議
- 第二十六 甲府岩淵間鐵道速成ノ請願 會 議

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

〔河井書記官朗讀〕

去ル十一日本院ニ於テ修正議決シタル政府提出輸入原料砂糖戻稅法中改正法律案ハ即日之ヲ衆議院ニ回付セリ
同日本院ニ於テ議決シタル教育基金ニ關スル建議ハ文書ヲ以テ即日之ヲ政府ニ呈出セリ
同日議員伯爵柳澤保惠君外三名ヨリ百十八名ノ賛成ヲ以テ國勢調查施行ノ準備ニ關スル建議案ヲ提出セリ
同日各特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ
沖繩縣罹災救助基金法案特別委員會
委員長 伯爵島津 忠亮君 副委員長 子爵鍋島 直彬君
衆議院議員選舉法中改正法律案(衆第八號)衆議院議員選舉法中改正法律案(衆第九號)特別委員會
委員長 伯爵松平 賴壽君 副委員長 南鄉 茂光君
印紙稅法中改正法律案特別委員會
委員長 子爵板倉 勝達君 副委員長 田邊 輝實君
同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
外國領海水產組合法中改正法律案可決報告書
民事訴訟法施行條例中改正法律案否決報告書
質屋取締法中改正法律案否決報告書

請願文書表第七回報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

北海道拓殖銀行法中改正法律案

軌道ノ抵當ニ關スル法律案

擔保附社債信託法中改正法律案

同日衆議院ヨリ左ノ同院提出案ヲ受領セリ

用惡水井路敷瀆地買上ニ關スル法律案

醫師法中改正法律案

齒科醫師法中改正法律案

裁判所構成法中改正法律案

昨十二日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

造船獎勵法中改正法律案可決報告書

遠洋航路補助法案可決報告書

同日政府ヨリ立木ニ關スル法律案ヲ提出セリ

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

種痘法案

明治四十年年度豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

明治四十年年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

明治四十年年度特別會計豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

明治四十年年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

件)

明治四十年年度清國事件第二豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

明治四十年年度韓國派遣部隊豫備費支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

同日衆議院ヨリ左ノ同院提出案ヲ受領セリ

農會法中改正法律案

獸畜市場法案

同日衆議院ヨリ政府提出印紙犯罪處罰法案ハ本院ノ議決ニ同意シ奏上シタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

同日衆議院ヨリ本院ノ回付ニ係ル政府提出輸入原料砂糖戻稅法中改正法律案ハ本院ノ修正ニ同意シ奏上シタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、議事日程第一、男爵眞木長義君、男爵川口武定君請暇ノ件、眞木男爵ハ病氣ニ付キ本月二十一日マデ、川口男爵ハ病氣ニ付キ會期中請暇デアリマス、何レモ許可ヲ致シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ガナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二、明治四十二年年度歳入歳出總豫算案並明治四十二年度各特別會計歳入歳出豫算案、會議、委員長報告、第三、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、會議、委員長報告、豫算委員長曾我子爵

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

一明治四十二年度歳入歳出總豫算案

一明治四十二年度各特別會計歳入歳出豫算案

一豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

右衆議院ヨリ送付シタル各案ヲ審查シ總テ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十二年三月九日

豫算委員長

子爵 曾我 祐準

貴族院議長公爵德川家達殿

〔子爵曾我祐準君演壇ニ登ル〕

○子爵曾我祐準君 明治四十二年度歳計豫算書ハ曩ニ委員ニ付託ニナリマシタル後、去スル二月十九日委員總會ヲ開キマシテ、大體ノ質問ニ始マリマシタ、其大體ノ質問ノ時分ニ重要ト認メマス所ノ二三ノモノニ付イテ先ヅ報告ヲ致シマス、豫算編製ノ大體ニ付キマシテ資金ノ繰替運用等ニ關スル數字上ノ問題ハ甚ダ必要ナコト、ハ認メマス、豫算ヲ議スル上ニ付イテ最も必要ナコト、ハ認メマスガ、今茲ニ之ヲ陳述イタシマスノハ非常ニ煩雜デ、且ツ數字バカリノ話デアリマスニ依ッテ殆ド爲シ能ハヌコト、思ヒマスニ依ッテ、數字ニ係リマス所ノモノハ之ヲ略シマスノデアリマス、是ハ速記録デ御承知ヲ

願ヒタウゴザイマス、其他廉立ツタモノノ二三ヲ申上ゲマスレバ、地方警察官ノ俸給ト云フモノハ甚ダ薄イモノデアル、本年司法省ノ増給ハ計上サレテ居ルガ、警察官ノ増給ノアル模様モ見エナイガ如何ニ政府ハ之ヲ考ヘテ居ルカ、斯ウ云フ質問ガアリマシタ、又他ニ海外商工事務官ノ派出ト云フコトハ、先年兩院建議モ通過シテ居ル次第デアル、今年モ此豫算中ニ計上ヲ見ナイノハ如何デアルカ、且ツ其必要ヲ懇々説カレマシタ、又或ル議員ハ國勢調査ノ件、是ハ既ニ勅令モ出テ二十八年ヨリ施行ノ筈デアッタガ、今日マデ延期シテ居ル、今年ノ豫算ニモマダ是ガ計上ヲ見ナイガ、是ハ次年度ニハ御出シナサルト云フ腹案ガアツテ御見合セニナツタノカト云フ、少シヒネクツタ質問ガアリマシタ、モウ一ツハ非常特別税ハ其名ノ如ク非常特別税デアレバ、税法調査ノ結果トシテ是非トモ提出ニナルベキモノデアル、既ニ一度提出ニナツタガ衆議院ニ止マツタ次第デアル、今日モ提出ガ無イガ、是ハイツ提出ニナルノデアアルカ、斯ウ云フ質問デアリマス、右ノ質問ニ對シマシテハ、國務大臣ハ殆ド萬篇一律、目下ノ財政デハ財源ヲ見出サナイ、今日ノ境遇ハ財政ノ基礎ヲ鞏固ニシ信用ヲ恢復スルノ第一ト致シテ居ル、税法整理其他國家ノ重要ナル件ハ財源ヲ見出シ次第、財政ノ許ス限リ必ズ案ヲ具シテ協賛ヲ求ムルデアラウ、又財政整理ノ如キハ一日モ怠ラナイ、調査ノ如キハ一日モ怠ラナイ、斯ウ云フ御答デゴザイマシタ、又日本大博覽會延期ニ付イテノ質問モアリマシタ、是ハ評議員ニ相談モセズ斷行シタノハ勅令ヲ守ラナイノデ無イカト云フヤウナ趣意ノ間デアリマシタガ、之ニ對シテ國務大臣ハ何分、外交上ノ都合、諮問スベキ時機ヲ得ナカッタ、時機デナイ、時機デナイト云フ一點張りノ答デアリマシタ、ソレカラ馬券發賣ノ質問、是ハ豫算委員デナイ所ノ谷子爵ガ委員會ノ承認ヲ請ウテ質問サレマシタ、是ハ長シキ質問デアリマシタ、其大要ハ外國ナドノ馬政ノコトヲ引イテ長イ質問ヲ致サレマシタ、併シ結局ハ馬券ヲ許サス以上ハ馬匹ノ改良ハ出來得ナイト信ズルノデアアルカト云フ間デアリマシタ、陸軍大臣ハ之ニ對シテ馬政局ノ設置ノ當時ヨリ説キ起サレテ、内外ノ馬ニ付イテノ事情、茲ニ二十八年計畫デシタカ、ソナモノモアルト云フコトヲ説カレマシテ、サウシテ結局、陸軍大臣ハ牧場ヲ保護シ產馬ヲ獎勵シテ意ラズンバ改良ハ出來ルト斯様ニ申サレマシタ、尙ホ谷子爵ハ續イテ馬券發賣ハキツト許サスノデアアルカ、馬券ハ此後決シテ許サスノデアアルカト云フコトヲ進ンデ問ヒマシタ、ソレニ對シテ今日ノト

コロ馬券發賣ヲ許スト云フコトハ無イ、斯様ニ明答サレマシタ、是等ノ唯今ノ陸軍大臣ノ答辯ハ質問者ヲシテ甚ダ満足セシメタヤウニ見受ケマシタ、又此満足ハ我々ニモ一分ヲ分タレマシタ、以上ノ質問ハ質問トハ申シナガラ質問者ハ一ノ希望ヲ有ツテ國務大臣ノ證言ヲ求メラレタル如ク感ジマシタニ依ツテ、殊ニ此事ヲ諸君ニ報道シテ置キマス、其他小事件ト認メマスモノハ一々申シマセヌ、大體ノ質問ヲ終リマシタカラ例ノ如ク各分科ニ付シマシタ、ソレハ三月五日ヲ審査報告ノ期限トシテ各分科ニ付シマシタ、以上ハ正親町伯爵ノ委員長時代ノコトデアリマスガ、本員其後ヲ承ケマシタニ依ツテ茲ニ申述ベマス、其後分科ノ主査ハ期日通り審査結了ノ報告ヲ致シマシテ、ソレデ三月九日ニ又總會ヲ開キマシテ、先ヅ主査ノ報告ヲ先キニ致シマシテ、各主査ハ審査ノ詳細ノ趣ヲ報ゼラレマシタ、サウシテ審査ノ結果、原案ノ通りニ可決シタト申スコトヲ報ゼラレマシタ、又此報告ト同時ニ各分科ニ於ケル希望ヲ述ベラレマシタ、此各分科ノ審査ノ次第ヲ逐一御報告スレバ餘リ長キニ過ギ、又其必要モナイト思ヒマス、ニ依ツテ各分科ニ於テ希望、各分科ノ主査ヨリ希望トシテ述ベラレタ件々ニ付イテ少シク陳述イタシマス、第一分科ニハ二ツノ希望ガアリマス、其一ツハ豫算編製上ノコトデアリマス、元來豫算書ハ隨分了解ニ苦シムモノデアリ、無用ナ所モ澤山ニアルヤウデア、種々ナ點ニ改良ヲ希望シテ居ルガ、今之ヲ持出スノデハナイガ、茲ニ最も改良ヲ要スルモノハ歳入ノ部デア、歳入ノ目ノ明細ガ甚ダ粗漏デア、爲ニ調査ニモ困リ、從ツテ質問モ多クナルカラ政府モ面倒デア、コレハ是非改良ヲ希望スルト云フ論デアリマシテ、贊成者モアリマシタ趣デアリマス、之ニ對シテ政府ハ今後ハ分リ易イヤウニ改メマセウト云フ返答ヲサレマシタ、今一ツハ是モ豫算デアリマスガ、是ハ特別會計ノ帝國鐵道ノ收益勘定デアリマス、此説明ノ表ノ作り方ガ甚ダ不穩當デアルト云フコトデ、是ハ以後ハ改メラレタイト云フコトヲ希望サレマシタ、政府ハ之ニ對シテ同意ノ意ヲ表サレタト云フコトデアリマス、第三分科ニ於キマシテハ内務省ニ付イテ色々希望ガアリマシタ趣デアリマスガ、地方長官ノ人選ヲ慎ンデ貰ヒタイ、竝ニ頻繁……地方長官ノ更迭ヲスルノガ甚ダ頻繁デア、是モ必要已ムヲ得スナラ勿論彼レ是レ申ス譯デハナイガ、格別必要デナイトキニモ更迭ガアルガ、以後ハ之ヲ慎ンダ宜カラウト云フ希望デアリマシタ、之ニ對シテ内務大臣ハ同意ヲ表サレマシタ趣デアリマス、今一ツハ地方長官ノ交際費ハ、

或ル所ニハ遣リ或ル所ニハ出ナイト云フヤウナ譯デ甚ダ偏頗ニアル、此偏頗ノ無イヤウニ希望スルト云フコトデアリマス、又同分科ニ於テ文部省ノ件ニ付イテモ希望ガアリマス、即チ或ル地方デハ、貯金獎勵ト稱シテ小學校ノ生徒ニ貯金ヲ強制スル趣デアルガ、是ハ一利害アラウ、當局者ニ於テハ十分ニ此事ニ就イテハ調査……慎重ニ調査スルノ必要ガアラウト思フカラ、ドウゾ十分ニ慎重ナル調査ヲサレムコトヲ希望スルト云フコトデアリマス、此一事ハ豫算總會ニ於テ主査カラ報告サレタノデハアリマセスガ、分科會ノ速記録ニハ留マツテ居ル、サウシテ主査ヨリ特ニ手紙ヲ以テ此席デ述ベテ吳レイト云フ依頼デアリマシタカラ、此一事ヲ附加ヘテ置キマス、又農商務省ニ付キマシテ希望ガアリマシタ、ソレハ製材所ニ關スルコトデ、今官デ伐ル所ノ材積、材木ノ積デアリマス、此材積ハ年々五百万尺ノ餘デアル趣デアルガ、是ガ今日ノ情態ニ照シテ果シテ適當デアルヤ否ヤ、或ハ多過ギハシナイカ、又ハ少ナキニ過ギルデハナイカ、是ハ十分ニ調査ヲ希望スルト云フ希望デアアル、今一ツハ製材所ヲ今度貸渡スト云フ案ガ出テ、ソレハ衆議院デ否決ニナッタガ、是ハ貸渡スヨリモ寧ロ賣渡ス方ガ相當デハナイカ、其利害得失ハドンナモノデアルカ、是ハ十分ニ調査ヲシテ次回ニ提出スルコトヲ希望スルト云フ希望、其他實業教育ノコトニモ希望ガアリマシタサウデアリマス、是ハ文部省ニ生徒ノ教育ヲスルガ如ク又農商務省ニ於テモ講習所ト云フモノガアツテ生徒ヲ教育スルヤウニナツテ居ル、此兩省ノ方針ガ矛盾スルコトハ無イカ、宜シク政府ハ氣ヲ付ケタラ宜カラウト云フ希望デアリマシタ、又同分科ハ遞信省ノ部ニ付イテモ希望ガアリマス、ソレハ金銀採掘ノ獎勵ハ目下ノ急務デアアル、大鑛山主ハ己レ自ラ製鍊所ヲ造ルコトモ出來ルガ、小鑛山主ニナルト自ラ製鍊所ヲ設クルコトハ殆ド出來ナイコトデアアル、故ニ小鑛山主ノ便利ヲ計ツテ製鍊所ト云フモノヲ特ニ作ツテ置イテ、小鑛山主ガ掘出シタ所ノ鑛石ヲ以テ直チニ之ヲ分析スルヤウニナツタナラバ、金銀鑛ノ採掘ガ益、盛ニナリ、國家ノ需要ヲ充タスヤウニナルデハナイカ、政府ハ此點ニ就イテ十分ノ調査ヲ望ムト云フ希望デアリマシタ、又遞信省ニ付キマシテ一ツノ希望ガアル、モウ一ツノ希望ガアリマス、ソレハ電話速成料ヲ取切リニスルノハ餘リヒドイヤウデアアル、何トカ方法ヲ立テ、若干年ニ速成料ヲ返スト云フ方法ヲ採ッタラ宜カラウ、是ハ外國デモ其例ガアルカラ、ドウカサウナルコトヲ希望スルト云フコトデアリマス、各分科ノ希望ハ大略斯ノ如キモノデアリマ

ス、ソレヨリ大體ニ就キマシテ質問又ハ意見ノ陳述トナリマシタガ、是ニモ亦色々重要ナル質問ガ出マシタ、其重要ナルモノ、二三ヲ擧ゲマスレバ、第一ニ現政府ノ方針ハ、財政ニ於ケル方針ハ自分ハ甚ダ賛成スル所デアアル、サリナガラ一國ノ財政ハ國ノ經濟界ト相俟テ行カナケレバナラヌモノデアアル、然レニ近來實業界ノ有様ヲ見ルニ甚ダ杞憂ニ堪ヘヌモノガアル、現ニ大會社ニシテモ甚ダ不都合ニ見エルモノガアル、是ハ實ニ杞憂ニ堪ヘヌノデアアルガ、之ニ付イテ政府ハ何ト考ヘテ居ラル、カ、之ニ對シテ何トカ考ヘラレテ居ルカト云フ質問ガアリマシテ、ソレニ相當ナル國務大臣ノ返答ガアツテ、質問者ハ尙ホ進ンデ、大會社ノ重役ナル者ガ脱税ヲ圖ッタトカ、虚偽ノ帳簿ヲ拵ヘテ株主ニ配當ヲ多クシタヤウナ事柄ガアルヤウニ聞エルガ、其重役ハ其行爲ヲ自ラ耻ヅルドコロデナク、或ル雜誌ニ公然自白ヲ載セテ居ル、是ハ實ニ眼中ニ法律ナク、傍若無人ノ有様デアアルガ、政府ハ是等ニ對シテ何ト處分スル積リデアルカ、ト云フ問デアリマシタ、之ニ對シテハ國務大臣ガ速記ヲ止メテ之ニ對スル處分竝ニ決心ヲ詳ニ答ヘニナリマシタ、併シ是ハ惜イカナ速記ヲ止メタコトデアリマスカラ、玆デ御報告ハ致シ兼ネマス、第二ハ税法ノ改正ト云フコトデ、是ハ成ルベク速ニ決行ニナルコトヲ切望スルト云フ趣意デアリマシテ、非常特別税ハ永ク存在セシムベキモノデナイト云フコトヲ說カレマシタ、喋々說カレマシテ政府ノ考慮ヲ促サレマシタ、ソレヨリ各省ノ部ノ議事ニ順序ニ入リマシタ、政府ハ衆議院ノ修正ニ對シテハ一切ニ復活ヲ希望セスト云フコトハ豫ネテ明言ヲサレテ居リマシタ、又各分科ニ於テモ、主査ノ報告ニ依リマスレバ、各分科ノ調査ニ於テモ、ドノ分科モ一ツモ修正論ハ出ナカッタ趣デアリマス、即チ原案通り可決サレタ趣デアリマス、政府ハ衆議院ノ修正ノ復活ヲ望マズ、各分科ニ於テハ原案通り可決シマシタト云フ譯デアリマスニ依ツテ、議事ニカ、リマシテカラハ一瀉千里ノ勢ヲ以テ進行シマシタ、サリナガラ其中ニチヨイ／＼出マシタ所ヲ申セバ、一ノ委員ハ外務省デ宴會費ノ増加ヲ望ムト云フ說、ソレカラ他ノ一委員ハ内務省ノ部デ神社ノ合併ヲスルト云フヤウニ見エルガ、是ニハ不同意ト云フ說、ソレカラ官吏ノ旅費ガ餘リ少ナ過ギテ實費ヲ償フニ足ラス、旅費規則ヲ改正セヨ、ト云フ希望ヲ分科會ニ於テ述ベタト云フコトヲ、其席ニ於テ御述ベニナリマシタ、某委員ハ大藏省ノ第二款第八項目ノ中ノ衆議院附屬舍、即チ虎ノ門俱樂部ノ件、之ニ付イテ政府委員ト度々ノ問答ガアリマシタ、是ハ別ニ……問答

ガアッタマデノコトデアリマシタ、臺灣總督府ノ所ニ於キマシテ教育費ニ付
イテ希望ヲ其席デ陳述サレタ委員モアリマシタ、其位ナコトデ、前ニ申上ゲ
マシタ通り一瀉千里ノ勢ヲ以テ總豫算、各特別會計歳入歳出豫算、豫算外國
庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件トモ全部、衆議院修正通り可決ニ
ナリマシタ、此段御報告ヲ致シマス

○伯爵柳原義光君 委員長ニ質問イタシタウゴザイマスガ宜シウゴザイマス
カ

○議長(公爵德川家達君) 宜シウゴザイマス

○伯爵柳原義光君 唯今ノ御説明ノ中ニ、虎ノ門俱樂部ノコトニ付イテ御問
答ガアッテ其儘デアッタト云フ御報告デアリマシタガ、ドウモ私ニハ能ク吞
込メマセスガ、モ少シ委シク條理ノ立ツヤウニ御話ヲ願ヒタイ

○子爵曾我祐準君 其問答ヲ悉ク一字一句違ハヌヤウニ申上ゲルト云フコト
ハ出来マセスガ……

〔伯爵柳原義光君「要領ダケデ宜シウゴザイマス」ト述フ〕

○子爵曾我祐準君 要領ト仰セラレマスレバ、虎ノ門俱樂部ノコトハ大藏省
ノ第二款營繕費ノ中ニアリマス、ソレニ付イテハ分科會ニ於キマシテモ議論
ガアリマシタ、度々政府委員ノ説明ヲ求メマシタガ、何ヤラ公私混淆ラシク
見エルト云フコトデ、甚ダ要領ヲ得マセヌデシタ、分科會ニ於テ決議ノ時分
ニ、大藏大臣ニ一委員ガ尙ホ問ハレマシタ、大藏大臣ハ道路改正ノ結果トシ
テ衆議院ノ内ガ虎ノ門ノ方ニ廣クナッタ、其地面ノ中ニ或ル私人ニ家ヲ建テ
サセ、ソレヲ衆議院ガ借リテ其内ヲ裝飾スル爲ノ豫算デアアル、謂ハバ造作付
カズノ借家ト云フ譯ニナル、ソレナラバ公私混淆ト云フ譯デモナイ、政府ガ
家ヲ借リテ惡ルイト云フコトモ無カラウカラ、其造作ノ金ナラバト云フノデ、
議論ナシデ可決イタシマシタ

〔伯爵柳原義光君「ソレデハ家ヲ返ストキハ其造作ハ御取返シニナル
譯デスカ」ト述フ〕

○議長(公爵德川家達君) 柳原伯爵ニ申シマスガ、御相對ノ御話ハ御斷リ致
シマス

○子爵曾我祐準君 返ストキニ、ドウスルト云フコトハ調査イタシマセスデ
シタ、ナカナカ急ニ返ス必要モ無イヤウニ思ヒマシタカラ……併シ御入用ナ
ラバドウゾ政府委員ニ御尋ネヲ願ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 此際、議題ト致シマスノハ議事日程第二ノ豫算案
○議長(公爵德川家達君) 別ニ御發議モ無イト認メマスカラ採決イタシマ
ス、明治四十二年度歳入歳出總豫算案全部、豫算委員長ノ報告ヲ可トセラル
、諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 明治四十二年度各特別會計歳入歳出豫算案 是モ

豫算委員長ノ報告ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 次ハ豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要
スル件ヲ議題ト致シマス

○議長(公爵德川家達君) 全部豫算委員長ノ報告通りデ御異存ノ無イ諸君ノ
起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第四、明治四十一年法律第九號中改正法
律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔東久世書記官朗讀〕

明治四十一年法律第九號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治四十二年三月九日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

明治四十一年法律第九號中改正法律案

明治四十一年法律第九號ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ土地賣却ニ依リ新營費ニ相當スル金額ヲ得ル能ハサル場合ニ於テハ
繰入金ノ不足額ハ學校及圖書館資金中ノ他ノ部分ヨリ之ヲ補充スルコトヲ
得

〔政府委員岡田眞平君演壇ニ登ル〕

○政府委員(岡田眞平君) 唯今議題ニナツテ居リマス明治四十一年法律第九號中ノ改正ノ理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、明治四十一年法律第九號ハ既ニ御承知アラセラレマス通りニ文部省所屬ノ不用地ヲ賣却イタシマシテ其代金ヲ以テ學校ノ設立ニ供スルト云フ案デゴザイマス、其法律ニ基キマシテ既ニ不用地ノ大部分ハ處分ヲ終ヘマシテ、其費用ヲ以テ既ニ建築ニ著手ヲ致シテ居ルノデアリマスガ、其不用地ノ内ノ一部分、即チ一ツ橋ノ外ニアリマスル所ノ高等商業學校鄰地ノ一筆ガ未ダ處分ヲ終ルコトガ出來マセヌデアリマス、即チソレハ豫定ノ價格ヲ以テ賣却スルコトガ出來マセヌノデ、今一ツニハ將來此高等商業學校ヲ擴張スルニ當リマシテ、其鄰地ニ適當ナル地面ガ、唯今アルノニ、之ヲ賣却イタシマシタトキニハ此擴張ニ差支ヘルト云フ虞ガアリマスノデ、旁、イタシマシテ此土地ノ賣却ヲ見合セマシテ、高等商業學校ニアリマスル所ノ基本金ヲ以テ此土地ト交換ヲ致サウト云フ趣旨ヲ以テ此改正案ヲ提出イタシマシタ次第デアリマス、何卒御協賛ヲ願ヒマス

○伊澤修二君 質問イタシタイデスガ、其資金ト云フノハ如何ナル性質ノ資金デアリマスカ、ソレヲチョット承リタイ

〔政府委員岡田眞平君演壇ニ登ル〕

○政府委員(岡田眞平君) 是ハ高等商業學校ニ屬シテ居リマスル所ノ基金デアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第五ニ移リマス、北海道拓殖銀行法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、議案ノ朗讀ハ省略シテ御異存ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

〔左ノ通牒文及議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

北海道拓殖銀行法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十二年三月十一日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

北海道拓殖銀行法中改正法律案

北海道拓殖銀行法中左ノ通改正ス

第十二條乃至第十四條及第二十條中「第七條第一號ニ依ル貸付金」ヲ「年賦償還貸付金」ニ改ム

第二十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ期限經過後仍五箇年間に北海道拓殖銀行ハ前條政府ノ引受ケタル株式ニ對スル配當金ヲ悉皆準備金ニ繰入ルヘシ

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 此北海道拓殖銀行法ノ改正案ハ二ツノ點カラ改正ニナリマスノデ、一ツハ同銀行ガ發行イタシマス社債ノ高ヲ定メマスル基礎ニナリマス年賦償還貸付金ノ内ニ公共團體ヘ貸付ケマスコトヲ加ヘヤウト云フノガ一點デアリマス、今一點ハ北海道拓殖銀行ノ株式ヲ政府ガ持ツテ居リマス、之ニ對シテ唯今デハ配當ヲ受ケナイコトニナツテ居リマスガ、明年ノ六月限リデ此無配當ト云フコトハ無クナルデアリマス、此無クナリマシタ後更ニ五年間政府ヘ配當スベキ筈ノ金ハ同銀行ノ積立金ニサセヤウト云フノガ改正ノ第二點デアリマス、第一點ノ改正ノ趣意ハ此法律ノ出來マシタ當時ハ北海道ノ町村ガ皆自治團體ニナツテ居ラナカッタデアリマスガ、其後北海道ノ町村ガ皆自治團體ニナリマシタニ付イテ是等ノ公共團體ガ拓殖銀行カラ年賦償還ヲ以テ借入金ヲナシマスコトガ段々起ッタデアリマス、既ニ年賦償還ノ借入金デアリマス以上ハ、社債ノ見返リ擔保ニシテ、ソレダケノ物ハ發行額ヲ多クシテ宜シイ勘定デアリマスカラ、此點ヲ一ツ改正スルノデアリマス、第二點ハ同銀行ガ北海道ノ拓殖上ノ金融機關トシテノ任務ヲ盡シマスニ付イテハ、マダ此後同銀行ノ働クベキ部分ハ澤山アルノデアリマス、付イテハ此政府ノ持ツテ居リマス株ニ對シテ配當スベキモノニナツテ居リマス其配當ニ充ツベキモノヲバ、尙ホ五年間同銀行ノ積立金ヘ積立テサセマシテ、其基礎ヲ固クスル必要アリト云フノデ、第二點ノ改正ヲ致スノデアリマス、ドウゾ御審查ノ上ニ御協賛ヲナシ下サルヤウニ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第六ニ移リマス、軌道ノ抵當ニ關スル法

律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

軌道ノ抵當ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十二年三月十一日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

軌道ノ抵當ニ關スル法律案

第一條 軌道ノ抵當ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外鐵道抵當法ヲ準用ス

第二條 軌道財團ハ左ニ掲クルモノニシテ軌道財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

一 軌道線路其ノ他ノ軌道用地及其ノ上ニ存スル工作物並之ニ屬スル器具機械

二 工場、倉庫、廐舍、發電所、變壓所、配電所、事務所、舍宅其ノ他工事又ハ運輸ニ要スル建物及其ノ敷地並之ニ屬スル器具機械

三 用水ニ關スル工作物及其ノ敷地並之ニ屬スル器具機械

四 軌道用通信、信號又ハ送電ニ要スル工作物及其ノ敷地並之ニ屬スル器具機械

五 前四號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動産ノ上ニ存スル地上權、登記シタル賃借權及前四號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ存スル地役權

六 車輛及馬匹並之ニ屬スル器具機械

七 保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料及器具機械

軌道營業者カ軌道ニ要スル電氣ノ餘力ヲ以テ電氣供給ノ業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ供給ノ爲要スル第二號乃至第五號及第七號ニ掲ケタルモノヲ軌道財團ニ屬セシムルコトヲ得

第三條 公共團體カ軌道及附屬物件ヲ買上ケタル場合ニ於テハ鐵道抵當法第二十六條ノ規定ヲ準用ス

特許ニ附シタル條件ニ依リ軌道財團ニ屬スルモノヲ無償ニテ國又ハ公共團體ニ引渡スヘキトキハ其ノ財團ヲ目的トスル抵當權ハ消滅ス

第四條 軌道營業者カ株式會社ニ非サル場合ニ於ケル軌道ノ抵當ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員山之内一次君演壇ニ登ル〕

○政府委員(山之内一次君) 唯今議事日程ニ上ボツテ居リマス所ノ軌道ノ抵當ニ關スル法律案ヲ提出イタシマシタ理由ノ大體ヲ御説明申上ゲヤウト思ヒマス、御承知ノ通り鐵道ノ抵當ニ付キマシテハ曩ニ帝國議會ノ協賛ヲ經マシテ既ニ法律ニナツテ居リマス、然ルニ軌道條例ニ依リマス所ノ軌道ハ、其性質、其效用ノ上カラ中シマシテモ、鐵道ト殆ド類似シタモノデゴザイマシテ、其線路、ソレカラ車輛其他ノ各種ノ物件ヲ綜合一括シナケレバ其效用ヲ完ウシ、又其眞價ヲ定メルコトガ出來ナイ性質ノモノデアリマス、然ルニモ拘リマセズ此軌道ノ抵當ニ付キマシテハ未ダ何等特別ノ法律ノ制定モゴザイマセヌノデ、資金ノ供給上ニ付キマシテハ未ダ何等特別ノ法律ノ制定モゴザイマセヌノデ、故ニ今此法律ニ依リマシテ軌道財團ノ設定ヲ認メマシテ、抵當權ノ效力デアリマスルコトカ、或ハ其執行ノ手續デアリマスルコトカ、其他ノ事ニ付キマシテハ皆此鐵道抵當法ヲ準用スルコトニ致シマシテ、ドウシテモ準用ノ出來ナイ分ダケヲ此法律ニ掲ゲマシタ次第デアリマス、サウシテ結局、軌道ニ關シマスル所ノ資金融通ヲ圓滿ニシテ益、此軌道ノ進歩發達ヲ圖リタイト云フ精神ニ外ナラヌ次第デアリマス、尙ホ詳細ノコトハ委員會デ御説明ヲ致シマスルケレドモ、大體右様ナ次第デゴザイマスカラ、宜シク御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第七、擔保附社債信託法中改正法律案、

政府提出、衆議院送付、第一讀會

擔保附社債信託法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治四十二年三月十一日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長 長谷場 純孝

擔保附社債信託法中改正法律案

擔保附社債信託法中左ノ通改正ス

第四條ニ左ノ一號ヲ加フ

八 軌道抵當

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員山之内一次君演壇ニ登ル〕

○政府委員(山之内一次君) 唯今ノ日程ニ上ボツテ居リマス擔保附社債信託法中改正法律案ニ付キマシテハ、是ハ軌道抵當法ヲ拵ヘマスルニ付キマシテ必要ナモノデアリマシテ、極ク單純ナモノデアリマスカラ、特ニ御説明スルダケノ必要ハ無カラウト思ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第六ト第七トノ法案ハ同一委員デ宜カラウト考ヘマスガ、御異存ゴザイマセスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第八、立木ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會

立木ニ關スル法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治四十二年三月十二日

内閣總理大臣侯爵桂 太郎
農商務大臣男爵大浦兼武
司法大臣子爵岡部長職

立木ニ關スル法律案

第一條 本法ニ於テ立木ト稱スルハ一筆ノ土地又ハ一筆ノ土地ノ一部分ニ造林ノ目的ヲ以テ生立セシムル樹木ノ集團ニシテ其ノ所有者カ本法ニ依リ所有權保存ノ登記ヲ受ケタルモノヲ謂フ

第二條 立木ハ之ヲ一箇ノ不動產ト看做ス

立木ノ所有者ハ土地ト分離シテ立木ヲ讓渡シ又ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

土地所有權又ハ地上權ノ處分ノ效力ハ立木ニ及ハス

第三條 立木ノ所有者ハ立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テモ當事者ノ協定シタル施業方法ニ依リ其ノ樹木ヲ採取スルコトヲ妨ケス

第四條 立木ヲ目的トスル抵當權ハ前條ノ規定ニ依リ採取ノ場合ヲ除クノ外其ノ樹木カ土地ヨリ分離シタル後ト雖其ノ樹木ニ付之ヲ行フコトヲ得」抵當權者ハ債權ノ期限ノ到來前ト雖前項ノ樹木ヲ競賣スルコトヲ得但シ其ノ競落代金ハ之ヲ供託スヘシ

樹木ノ所有者ハ競賣ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所ニ相當ノ擔保ヲ供託シテ競賣ノ免除ヲ申立ツルコトヲ得

第一項ノ規定ハ民法第百九十二條乃至第百九十四條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第五條 立木カ土地ノ所有者ニ屬スル場合ニ於テ其ノ土地又ハ立木ノミカ抵當權ノ目的タルトキハ抵當權設定者ハ競賣ノ場合ニ付地上權ヲ設定シタルモノト看做ス但シ其ノ存續期間及地代ハ當事者ノ請求ニ依リ地方ノ慣習ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム

第六條 立木カ地上權者ニ屬スル場合ニ於テ其ノ地上權又ハ立木ノミカ抵當權ノ目的タルトキハ抵當權設定者ハ競賣ノ場合ニ付地上權ノ存續期間内ニ於テ其ノ土地ノ賃貸借ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ存續期間及借貸ニ付テハ前條但書ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ地上權ノ存續期間ノ定ナキトキハ其ノ期間ハ當事者又ハ賃借人ノ請求ニ依リ地方ノ慣習ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム

民法第六百四條及第六百十二條ノ規定ハ第一項ノ賃貸借ニ之ヲ適用セス

第七條 前條ノ規定ハ轉貸ヲ爲スコトヲ得ル土地ノ賃借人ニ屬スル立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 地上權者又ハ土地ノ賃借人ニ屬スル立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テハ地上權者又ハ賃借人ハ抵當權者ノ承諾アルニ非サレハ其ノ權利ヲ拋棄シ又ハ契約ヲ解除スルコトヲ得ス

第九條 立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ所有者カ樹木ノ運搬ノ爲土地ヲ使用スル權利ヲ有スルトキハ立木ノ競落人ハ其ノ權利ヲ行使スル

コトヲ得此ノ場合ニ於テハ相當ノ對價ヲ支拂フヘシ
前項ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之ヲ準用ス

第十條 第二條第三項及第三條乃至第九條ノ規定ハ先取特權ニ之ヲ準用ス
第十一條 土地又ハ地上權カ質權ノ目的タル場合ニ於テハ其ノ土地ニ生立
スル樹木ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 各登記所ニ立木登記簿ヲ備フ

不動産登記法第十四條第二項及第十九條ノ規定ハ前項ノ登記簿ニ之ヲ準
用ス

第十三條 立木登記簿ハ一箇ノ立木ニ付一用紙ヲ備フ

第十四條 立木登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙ノ二區ニ
分チ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設
ク

登記番號欄ニハ各立木ニ付登記簿ニ始テ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ立木ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號
欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ先取特權及抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第十五條 登記ノ申請書ニハ不動産登記法第三十六條ニ掲ケタル事項ノ外
左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 樹木カ一筆ノ土地ノ一部分ニ生立スル場合ニ於テハ其ノ部分ノ位置

及段別、其ノ部分ヲ表示スヘキ名稱又ハ番號アルトキハ其ノ名稱又

ハ番號

二 樹種、數量及樹齡

第十六條 不動産登記法第六條及第七條ノ規定ハ所有權保存ノ登記ニ
之ヲ準用ス

第十七條 所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ保存登記ニ付土地
ノ登記簿上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又
ハ之ニ代ルヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第十八條 既登記ノ土地ニ生立スル樹木ニ付所有權保存ノ登記ノ申請アリ
タル場合ニ於テ土地ノ登記用紙中土地又ハ地上權ヲ目的トスル先取特權

又ハ抵當權ノ登記アルトキハ立木登記簿ニ其ノ登記ヲ轉寫スヘシ但シ其
ノ登記ニ抵當權カ樹木ニ及ハサル旨ノ記載アルトキハ此ノ限ニ在ラス
不動産登記法第八十三條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用
ス

第十九條 既登記ノ土地ニ生立スル樹木ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲シタル

トキハ土地ノ登記用紙中表示欄ニ立木ノ登記番號ヲ記載シ登記官吏捺印
スヘシ立木ノ區分ノ登記ヲ爲シタルトキ又ハ立木ノ存スル土地ニ付所有
權保存ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

立木ノ登記用紙ヲ閉鎖シタルトキハ前項ノ規定ニ依リテ記載シタル登記
番號ヲ朱抹シ登記官吏捺印スヘシ

第二十條 立木ノ分合若ハ滅失アリタルトキ又ハ第十五條第一號及第二號
ニ掲ケタル事項ニ變更アリタルトキハ所有權ノ登記名義人ハ遲滞ナク其
ノ登記ヲ申請スヘシ但シ樹木ノ發生若ハ成長又ハ第三條ノ施業方法ニ依
ル變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

立木ノ存スル土地ノ地目、字、番號又ハ段別ニ變更アリタルトキ亦前項
ニ同シ

不動産登記法中建物ノ滅失及其ノ表示ノ變更ノ登記ニ關スル規定ハ前二
項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二十一條 立木ヲ目的トスル抵當權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ
申請書ニ不動産登記法第一百七條ニ掲ケタル事項ノ外施業方法ヲ記載ス
ヘシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員河村讓三郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(河村讓三郎君) 本案ハ曩ニ一トタビ提出イタシマシタコトガゴ
ザイマス、其後十分取調ヲ致シマシテ、修正ヲ加ヘタモノデアリマス、修正
イタシマシタ要點ハ、本案ノ適用ヲ造林ノ目的トスルモノニ限リマシタノデ
ゴザイマス、造林デアリマスレバ、稍、正確ニ其物件ノ表示ヲ登記簿ノ上ニ
記載スルコトガ出來マスルデアリマス、又罰則ハ此案ヨリ除キマシタ、是
ハ刑法ニ相當ノ規定ガ出來マシタ故ニ、此案ニハ加ヘマセスコトニ致シマシ
タノデゴザイマス、立木ヲ土地ト分離シテ抵當ノ目的ト致シテ金融ノ途ヲ開

クコトハ林業ノ發達改良上ニ必要ナリト認メテ居リマス、御審議ノ上、御協賛ヲ願ヒタイト思ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第九、外國領海水產組合法中改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告、委員長寺島伯爵

外國領海水產組合法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十二年三月十一日

右特別委員長

伯爵 寺島誠一郎

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵寺島誠一郎君演壇ニ登ル〕

○伯爵寺島誠一郎君 唯今ノ日程ニ上ボリマシタ外國領海水產組合法中改正法律案特別委員會ノ審査ノ經過ト結果ヲ御報道イタシマス、外國領海水產組合法ト申スノハ、明治三十五年ニ出來マシタ法律デアリマシテ、此法律ニ依ッテ外國ノ領海ニ於テ漁業等ニ從事スル帝國臣民ハ水產組合ヲ組織スルコトガ出來ルト云フコトヲ規定シタルモノデアリマス、而シテ其第四條ニ「組合ノ區域内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ」ト強制的ニ其業務ニ從事スル者ハ此組合ニ加入シナケレバナラヌト云フコトヲ決メテゴザリマス、但書モゴザイマスケレドモ、是ハ左ホド必要ガゴザイマセスカラ讀ミマセヌ、ソレカラ第五條ニ「組合ノ設置アリタルトキハ組合、組合聯合會又ハ組合員ノ名ヲ以テスルノ外人ノ名義ニ依ルト他人ニ雇ハル者トヲ問ハス組合ヲ組織セル營業者ト同一種類ノ營業ニ從事スルノ目的ヲ以テ組合ノ營業區域ニ渡航シ又ハ船舶若ハ漁具ヲ廻送スルコトヲ得ス」但書ガアリマスケレドモ、是ハ左ホド要ハゴザイマセスカラ讀ミマセヌ、斯ノ如ク此組合員デナケレバ外國ノ領海ニ出テ漁業等ニ從事スルコトハ出來ナイノミナラズ、組合員デナケレバ外國ノ領海ニ出テ、外國ノ漁業者ニ雇ハレテ此業務ニ從事スルコトモ禁ジテアルノデゴザイマス、デ即チ言葉ヲ換ヘテ申シマシレバ、是等ノ組合外ノ者ハ大ニ其自由行動ヲ執ルコトヲ禁ゼラレテ居ルノデアリマス、ソレカラ其次ノ條、第六條ニハ此唯今讀ミマシタ第四條第五條ニ記載シテアリマスルコトニ對シマスル制裁ヲ掲ゲタノデ、第四條ノ違反者ニ對

シテハ五十圓ト云フ過料、ソレカラ同時ニ其組合員デナイ人々ガ此第五條ニ掲ゲテアル規定ニ違反シタル場合ニハ金五千圓ト云フ甚ダ重キ過料ヲ科スト云フコトヲ掲ゲテアルノデアリマス、ソレデ一方向ニ於テハ斯ノ如ク我ガ臣民ノ側ニ對シテ甚ダ嚴シキ規則ヲ拵ヘテアルト同時ニ、他方ニ於テハ即チ外國ノ方ノ……其對手方ノ外國領海ノ主權國ノ側カラ見マシレバ、漁業ニ必要ナル所ノ日本ノ漁業者ヲ使用シテ其業務ニ從事シテ行クコトガ出來ナイト云フコト、ソレカラ我邦ノ極ク整頓シテアル所ノ漁具デアルトカ或ハ又船舶ト云フモノヲ使用スルコトガ出來ナイヤウニ、之ガ爲ニ規定サレテ居ルノデ、甚ダ彼ノ方ニ於テモ不都合ヲ感ズル次第デアリマス、デ何ガ故ニスウ云フヤウナ不思議ナ奇々怪々タル條文ヲ拵ヘテ、嚴重ニ取締ッタカト云フコトハ其當時ノ情態ガ然ラシメタノデアッテ其時ノ有様ハ我邦ニ於テ斯ノ如キ敵對ノ心持ヲ有ッタ規定ヲ拵ヘテ彼ニ對スルト云フ必要ガ存シテ居ッタノデアリマシテ、ソレハ此議會ニ於ケル多數ノ御方ハ勿論御承知デゴザリマセウガ、其當時議會ハ勿論、政府、ソレカラ又民間ニ於ケル所ノ斯業ニ關係ヲ持ッテ居ル實業者等モ全然一致ヲ以テ斯ノ如キ規定ヲ設クルコトニナッテ居ッタノデゴザイマス、デ併ナガラ今日ノ有様ハドウデアアルカト申シマス、局面ハ一轉シテ仕舞ヒマシテ漁業上ノ關係ヲ持ッテ居ル外國トノ協約ガ出來テ、サウシテ其協約ニ伴ッテ起ッテ來ル所ノ細カイ事項ヲ規定スル所ノ協定モ成立ッテ居ルノデ、斯業ニ從事スル所ノ帝國臣民ハ彼トノ關係ヲ圓滿ニシテ段々將來此業ノ發展ヲ望マレツ、アル際ナノデアリマシテ、是等ノ舊イ第四條カラ起ッテ來ル所ノ第五條ノ如キ法文ヲ設ケテ、以前ノ如ク嚴シク拘束シテ置ク必要ハ全然無クナッタノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ、第五條ヲ削除スルト云フコト、ソレカラ第四條ニ對スル制裁ノ五十圓デアッタト云フノト、元ノ第五條ニ對スル所ノ制裁五千圓トヲ極ク能ク考ヘテ、其結果トシテ第六條ニ今度ハソレヲ變更シテ、千圓ダケノ過料ヲ科スルト云フコトニ直シタ、デ是等ガ政府委員カラ聞キマシタ所ノ理由デアリマシテ、委員會ハ是等ノ理由ニ考慮ヲ加ヘテ、誠ニ適當ノモノデアルト認メマシタカラシテ、殆ド討論ノ必要ナクシテ、一致ヲ以テ可決シタ次第デゴザリマス、デ、チヨット是ダケ御報告イタシマス、併セテ申述べテ置キマスルノハ、此案ハ至ッテ簡明ナ案デアリマシテ委員會デモ討論ナクシテ可決シタ次第デアリマスカラ、本會ニ於キマシテモ議會ヲ省略シテ直チニ可決アラムコトヲ希望イタシマス

○村田保君 讀會省略ヲ賛成イタシマス

○子爵大久保忠順君 賛成

○伯爵大木遠吉君 賛成

○田中芳男君 賛成

○子爵板倉勝達君 賛成

○南郷茂光君 賛成

○子爵本多忠敬君 讀會省略ニ賛成

○伯爵吉井幸藏君 賛成

○伊澤修二君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 寺島伯爵ノ讀會省略ノ動議ニハ成規ノ賛成者ガアツタト認メマス、讀會省略ヲ可トセラレル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 原案特別委員長ノ報告通リデ御異存ハゴザイマセスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十、國債ノ利子所得税免除ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、第十一、登録國債ノ擔保充用ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、第十二、政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入銷却ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長大原伯爵

國債ノ利子所得税免除ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十二年三月十日

右特別委員長

伯爵 大原 重朝

貴族院議長公爵德川家達殿

登録國債ノ擔保充用ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十二年三月十日

右特別委員長

伯爵 大原 重朝

貴族院議長公爵德川家達殿

政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入銷却ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十二年三月十日

右特別委員長

伯爵 大原 重朝

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵大原重朝君演壇ニ登ル〕

○伯爵大原重朝君 唯今議事ニ上ボリマシタル所ノ國債ノ利子所得税免除ニ關スル法律案、外二件ノ委員會ノ模様ヲ報告イタシマス

〔男爵尾崎三良君「ドウゾ大キナ聲デ願ヒマス」ト述フ〕

〔「同感」ト呼フ者アリ〕

去ル十日ニ正副委員長ヲ選舉イタシマシタル所ガ直チニ會議ヲ開イテ吳レト云フ請求ガゴザイマシタル爲ニ、政府委員ノ出席ヲ求メマシテ説明ヲ請ヒマシタル次第デゴザイマス、此問題ハ財政經畫ニ對スル必要ナ問題デアルト云フコトハ、大藏大臣ガ議場ニ於テ述べラレタル次第デゴザイマスケレドモ、極ク簡略ナ御説明デゴザイマシタルカラ、政府委員ニ委シイ所ノ説明ヲ求メマシタル次第デゴザイマス、其説明モ委シクゴザイマシタルガ、又委員モ大分委シク質問モ致シマシタル、併ナガラ多々ゴザイマス中ニ要領ノ在ル所ノ大要ダケヲ申上ゲルコトニ致シマス、其利子ヲ免除スルト云フ所得税ノ附イテ居ル國債ハ何程デアルカ、其免除スル高ハ何程デアるかト云フコトヲ質問サレタル次第デゴザイマスガ、政府ノ委員ノ申シマスルニハ五箇年平均デ凡ソ二十三萬圓ホドノモノデアル、是ガ今日マデニ取上ゲタル所ノ概略、ソレカラ今後鐵道買収ニ對

スル公債ハ四億八千万圓ホドノモノデアリマスカラ、其中ニ御料ノモノモアレバ公法人ノ稅ヲ取ラヌモノガ凡ソ三千万圓ホドアル、其殘リダケトシテ四億五千万圓ホドノモノガアル、此税金ガ四十五万圓、之ヲ前ノ二十三万圓ニ合セマスト、概略六十八万圓ホドニナル、是ダケガ歳入カラ減ズル所ノ數ニナルノデアリマス、其歳入ヲ減ズルト云フコトハ、現今ノ歳入ノ要ル所ニ減ズルト云フコトハ如何デアルト云フ間ヒモゴザイマシタ、是ハ六十八万、概略七十万圓ホドノ減デハアリマスケレドモ、其減ズルヨリハ得ル所ノモノガアルカラ、ソレガ爲ニ減ジテ宜イノデアアル、其得ル所ノ利益ハ何デアアルカト云フト、國債所有者ノ俗ニ言フ懷ロ合ヒ、是ガ確メラレルノデアアル、尙ホ所得シテ居ル者カラ見マスト、所得税金ト云フモノハ千分ノ二十デアアルカラ、其二十ト云フモノガ二十五ニナルヤラ、三十ニナルヤラ、知レヌト云フ危ブミモアルノデアアル、ソレガ無イト云フコトニナレバ大ニ安心スルノデアアル、是ガ一ツデアリマス、ソレカラ外國人モ今マデ公債ヲ買ッテハ居リマスケレドモ、是モ矢張り所得稅ガ附キマスル、免除シテ居ルノハ外國債ダケデアリマシテ内國債ヲ買ヒマストキニハ矢張り内地ノ方ヘ稅ヲ出スト云フ有様ニナルノデアリマス、是等ノモノガ所得稅免除ニナリマスレバ安心シテ所有ヲ致ス譯ニナリマスカラ、ソレニ付イテハ價格モ増加スル、又價格ガ増加イタシマスケレドモ需要者ガ多イト云フコトニナル、ソレカラ國債ノ整理ニ於キマシテモ統一ニナリマスカラ當局者モ便利デアアル、斯ウ云フノデアリマシテ、減ル所ヲ以テ得ル所ノモノガ數字ニハ現ハレマセスケレドモ利益ガアルト云フコトデゴザイマス、ソレカラ其次ノ問題ガ矢張り關聯シテ居ルデアラウカラ併セテ説明ヲ請ヒタイト云フコトデアリマシテ、其次ノ問題ノ説明ヲ政府委員ニ請ヒマシタ次第デアリマス、ソレハ登錄國債ノ擔保充用ニ關スル法律案、登錄國債ト云フモノガ甲乙二種デゴザイマシテ、甲ハ即チ日本銀行ニ登錄ヲ致シマスル、登錄ヲ致シマスレバ併セテ國債ノ原簿ニモ登記スルコトニナル、是ハ登記濟ト云フ證ヲ渡シマスルダケノコトデアリマシテ、有價證券ト云フモノニハナリマセスケレドモ確メラレルト云フコトニハ大ニ效用ガアルト申スコトデアリマス、ソレカラ乙種ノ方ハ記名公債、固ヨリ記名デハアリマスガ、登錄イタシマスレバ是ハ有價證券ヲ發行スルト云フコトニナリマス、デ之ヲ以テ政府ニ對スル法律ノ結果トシテ擔保トナルヤウナコト、或ハ其他ニ供託シマスルヤウナ所ニモ極ク便利ノ處置デアルト云フコトデアリマ

ス、ソレカラ其登記ハ……登錄ハ何所デ出來ルカト云フコトモアリマシタガ、ソレハ日本銀行デヤレル、日本銀行バカリデヤレルト云フコトハ甚ダ便利ナ様デ甚ダ不便ヲ來タス譯デアアルガ、ドウデアアルカト云フ質問モアリマシタガ、是ハ各地方ノ支店ト云フモノニ取扱ハセレバ宜シイケレドモ、重キヲ加ヘテ本店デ取扱フコトニシテ、支店ノ方デハ其扱ヒダケヲサセテ本店ヘ通知ヲスル、本店デ其事ヲ處置シテ又支店ノ方ニ回スト云フコトデアアル、是ハ至極便利ナ法デアアル、斯ウ云フコトデゴザイマシタ、デソレカラモウ一ツノ政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入銷却ニ關スル法律案、是モ併セテ説明ヲ請ヒマシタノデアリマスガ、是ハ前ノガトハ違ヒマシタヤウデゴザイマス、是ハ四十二年十一月二十八日ニ勅令デ政府ガ擔保トシテ取ル所ノモノハ、額面ノ百圓ナラバ百圓、千圓ナラバ千圓ト云フノデ、時價デナク取扱ッテ宜イト云フコトガ勅令デ出テ居リマス、其結果デアアルサウデゴザイマス、詰リ擔保トシテ置キマスモノガ擔保流レト見マスレバ則チ時價デ是マデヤッテ居ッタノガ額面ト云フコトニナリマスルト、擔保流レニハ幾ラカノ損歩ガ出ルノデアリマス、其損歩ハ五箇年ノ累計デ凡ソ八万圓ホドノモノデアアル、其八万圓ノ一割、八千圓ト云フモノガ即チ損歩トナルト云フコトニナッテ居ルノデアアル、斯ウ云フコトデアリマシテ、ソレカラ色々質問ガアリマシタガ、ドウモサウ云フ擔保ノ取り方デハ政府ガ非常ナ損ヲシナクテハナラヌヤウニナリハセヌカ、又惡意ノアル者デアラナラバ、額面デ行クナラバ廉イ所ノモノヲ持ッテ行クヤウニシナケレバナルマイカト云フコトノ質問モゴザイマシタガ、ソレニ對スル政府ノ委員ノ話ニハ、例ハ多々ゴザイマシタガ、其中デ重モナルモノハ酒ノ稅ナドカ概略百万圓ト致シマスレバ其四分ノ一即チ二十五萬圓ホドヲ保證金トシテ取ッテ居ルノデアアル、デ其一割方ホドヲ損シテ大ナル利益ノアル、信用ノアルモノヲ大切ニスル爲ノ商業ガ僅ニ二十五萬圓ノ一割グラキデ其信用ヲ失フト云フコトハ極メテ無イ道理ノコトデアアル、若シ是ガアッタトスルナラバ必ズ營業ヲ差止ムルトカ云フヤウナコトモアル、其様ナモノニハ營業ヲ差許スト云フコトモ無イ道理デアアルカラ、サウ云フ御心配ハ決シテ無カラウト云フコトデアリマシタ、細カイ所ハ多々ゴザイマシタガ、概略要點ハ其ナ位ナ所デアリマシタ、ソレカラ初メハ返リマシテ國債ノ利子所得稅免除ニ關スル法律案ノ討議ニ掛ラウト致シマシタ所ガ、委員ノ方ヨリ極ク明瞭ナコトデアアル、又至極結構ナ案デアアルカラ、モウ原案可決デ宜

シカラウ、斯ウ云フコトニナリマシテ全會同意サレタ都合デゴザイマシタカラ、別段ニ議ト云フモノハ起ラヌ次第デゴザイマシタ、全部即チ三案共ニ政府ノ案通りデ宜シイト云フコトデ可決イタシマシタ、此段御報告イタシマス、デスノ如キ問題デゴザイマシテ甚ダ訥辯ノコトデゴザイマスカラ御分リ兼ネル所モゴザイマセウカラ、委シイコトヲ御尋ネガゴザイマスルナラバ、ドウカ政府委員ニ御質問ヲ願ヒタウゴザイマス、右申上ゲマシタ通り委員會デハ一向異議モゴザイマセズ可決イタシマシタ次第デゴザイマスカラ、ドウカ讀會ヲ省略セラレテ三案トモ原案ノ通り可決アラムコトヲ希ヒマス

○田邊輝實君 賛成

○伯爵大木遠吉君 讀會省略賛成

○伯爵寺島誠一郎君 讀會省略賛成

○伯爵萬里小路通房君 讀會省略賛成

○子爵加納久宜君 讀會省略賛成

○男爵松平正直君 讀會省略賛成

○南郷茂光君 讀會省略賛成

○伯爵廣澤金次郎君 賛成

○男爵高木兼寛君 賛成

○子爵本莊壽巨君 讀會省略賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 大原伯爵ノ讀會省略ノ動議ニハ成規ノ賛成者ガアツタト認メマス、大原伯爵ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 三案トモ特別委員長ノ報告通りデ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公爵德川家達君) 三案トモ特別委員長ノ報告通りデ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十三、會計法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十三、會計法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十三、會計法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

會計法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十二年三月九日

衆議院議長 長谷場純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

會計法中左ノ通改正ス

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムヘシ

第十二條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

國務大臣ハ憲法第七十條ノ場合ヲ除クノ外豫備費ノ定額以外ニ豫算超過

又ハ豫算外ノ支出ヲ爲スコトヲ得ス

附則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十四、民事訴訟法施行條例中改正法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、委員長報告、副委員長奥山君

民事訴訟法施行條例中改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十二年三月十一日

右特別委員長

伯爵 川村鐵太郎

貴族院議長公爵德川家達殿

○奥山政敬君 委員長ガ缺席ヲ致シテ居リマスカラシテ、副委員長ガ代ッテ御報告ヲ致シタウゴザイマス

〔奥山政敬君演壇ニ登ル〕

○奥山政敬君 唯今議題トナッテ居リマスル所ノ民事訴訟法施行條例中改正法律案ノ委員會ノ經過ト其結果ヲ御報告ヲ致シマス、去ル二日ニ正副委員長ノ互選ヲ致シマシテ、一昨十一日ニ委員會ヲ開イタノデアリマス、御承知ノ通りニ此案ハ明治十年ノ第十九號ヲ以テマシテ大審院ニ上告スルニハ豫納金十圓ヲ納メロト云フコトノ布告ガアリマス、ソレカラ明治二十三年十一月一日ヨリ裁判所構成法ガ施行ニナリマシタニ依ッテ、其構成法中ニ上告ハ區裁判所ノ判決ニ對スルノハ控訴院トナリマシテ地方裁判所ニ關スル上告ハ大審

判所ノ判決ニ對スルノハ控訴院トナリマシテ地方裁判所ニ關スル上告ハ大審

判所ノ判決ニ對スルノハ控訴院トナリマシテ地方裁判所ニ關スル上告ハ大審

判所ノ判決ニ對スルノハ控訴院トナリマシテ地方裁判所ニ關スル上告ハ大審

判所ノ判決ニ對スルノハ控訴院トナリマシテ地方裁判所ニ關スル上告ハ大審

判所ノ判決ニ對スルノハ控訴院トナリマシテ地方裁判所ニ關スル上告ハ大審

判所ノ判決ニ對スルノハ控訴院トナリマシテ地方裁判所ニ關スル上告ハ大審

判所ノ判決ニ對スルノハ控訴院トナリマシテ地方裁判所ニ關スル上告ハ大審

判所ノ判決ニ對スルノハ控訴院トナリマシテ地方裁判所ニ關スル上告ハ大審

判所ノ判決ニ對スルノハ控訴院トナリマシテ地方裁判所ニ關スル上告ハ大審

判所ノ判決ニ對スルノハ控訴院トナリマシテ地方裁判所ニ關スル上告ハ大審

院トナッテアリマスニ依ッテ 前ノ法律ハ大審院トゴザイマシタガ、此構成法ガ實施サレマスルニ付イテ、明治二十三年ノ第五十號ヲ以テマシテ大審院トアリマスルノ上告裁判所ト改メマシテ當分ノ間其效力ヲ有スルト云フコトニナリマシタ、矢張り此構成法ガ施行ニナリマシテモ、民事訴訟法ガ實行ニナリマシテモ、矢張り上告ヲ致シマスルニハ豫納金ヲ出スコトニナッタノデアリマスル、ソレヲ今般其民事訴訟法施行條例ノ第十二條ヲ削除イタシタイト云フ法律案デアリマス、即チ其十二條ガ當分ノ間效力ヲ有スルト云フコトニナッテ、矢張り豫納金ヲ納メルコトニナッテ居ルノデアリマス、ソレヲ廢スルト云フノデアリマスニ依ッテ先ヅ以テ政府ノ所見ヲ問ウタノデアリマスガ政府委員ノ説明ニ依リマスル此法律ノ出タ所ノ趣意ト云フモノハ、徒ラニ上告ヲスルモノガ多イ、其結果トシテ他ノ事件ノ延滞ヲ來タシ人民ニ取ッテモ無用ナ費用ヲ掛ケルシ、裁判所ニ於テモ其爲ニ非常ナ延滞ヲ來タス不都合ガアルニ依ッテ、其上告ヲスル者ハ其豫納金ヲ納メルコトニ致シタノデアアル、尤モ勝訴ニナリマスレバ……自分ノ趣旨ガ立チマスレバ納メタ所ノ豫納金ノ十圓ハ人民ニ還付スルノデアアル、今日ニ至ッテモ其制度ハ昔日ニ異ナルコトハ無イト認メルニ依ッテ、原案ニハ飽クマデ反對ヲスルト云フコトデアリマシタ、依ッテ委員中ヨリ續々質問モゴザイマシタデアリマス、ゴザイマシタガ、段々取調ベテ見マスルト、最近二三年ノ上告ノ結果ヲ調ベテ見マスルト、棄却ニナッタモノ、數ガ大變ニ多イノデアリマス、其多イト云フノハ即チ濫訴ト云フコトガ明カニ分ルノデアリマスニ依ッテ、之ヲ廢止イタシマスルト益、上告ヲスル者ガ殖エテ參ル、サウナリマスルト從ッテ他ノ事件ニモ影響ヲ及ボシテ延滞ヲスルト云フコトハ是ハ數ニ於テ免レスコトデアラウト委員會デハ認メタノデアリマス、依ッテ全會一致ヲ以テ本案ハ否決トナリマシタノデゴザイマス、マア大略右ノ通りノ次第デゴザイマス、御承知ノ通り本案ハ極ク簡單ナモノデゴザイマスカラシテ、讀會省略ヲ以テ……是ハ甚ダ惡ルウゴザイマシタ、直チニ決セラレムコトヲ希望イタシマス

○菊池武夫君 私ハ原案ニ賛成イタシマス、是ハ矢張り副委員長カラ報告ニナリマシタ通りニ、當分ノ間、效力ヲ有タセルト云フノデアリマス、ソレハ印紙法ト云フモノヲ制定セラレマシテ訴訟ヲスルニ付キマシテハ印紙ヲ貼ラナケレバナラス、ソレハ從前ヨリハ餘ホド多イ印紙ノ高ヲ貼用シナケレバナラスト云フコトヲ定メラレタトキニ、是ハ當然消滅スベキ筈ノモノデアアル、

即チ上告ニ對スル制限ノ一ツトシテ、モト豫納金ノ制ヲ置キマシタノデゴザイマス、ソレガ印紙ヲ貼ルト云フコトニナリマシタ曉ニハ印紙ガ其制限デアルノデアリマス、其上ニ尙ホ此豫納金ノ制度ヲ維持スルト云フ理窟ガ無クナッテ仕舞ッタ、ソレガドウカラ今日マデ殘ッテ來タノデアリマス、道理ノ上カラ申シマスルト疾ウニ是ハ廢サレベキ條文デアルト考ヘル、ソレカラ又前年刑事ノ上告ニ付イテ豫納金ノ規則ガ廢サレマシタ、御承知ノ通り刑事ノ方ニハ印紙ヲ貼ルト云フコトガ無イノデアアル、ソレユエ私ナドハ刑事ノ方ニハ此制限ヲ存スル方ガ宜カッタ考ヘテ居ルノデアリマス、刑事ノ方デ、タッタ一ツノ制限デアッタニモ拘ラズ、ソレガ廢セラレタ以上ハ、ソレトノ關係上、民事ノ方デケテ殘シテ置クト云フコトハ餘程ヲカシナコトダラウト思フ、ソレカラ又之ヲ廢シマシタラバ上告ハ大變殖エテ來テ、ソレガ爲ニ他ノ事件ノ調ベノ延滞ヲ來タスデアラウト云フ御懸念デアリマスケレドモ、是ハ唯當局者ガサウ御認メニナルダケノ話デアッテ、私ドモナドハ又サウデアアルマイト推測シテ居ル、是ハ推測ト推測デスカラ、ドチラガ當リマスカ分リマセスガ、免ニ角今日ノ現情ヲ申上ゲマスルト、訴訟殊ニ民事訴訟ハ著シク減ル方ノ傾キデアアル、モウ餘ホド五六年前ト今日ト比較イタシマスレバ減ジテ居ルノデアリマスカラ、其大勢ニ照シテ考ヘテ見マスルト、假令多少此規則ノ廢止ノ爲ニ件數ガ殖エルト云フコトヲ、マア假ニサウダト致シマシタ所ガ大シタ影響ハ無イ勢ヒニナッテ居ル、況ヤ唯殖エルダラウト云フノハ「ダラウト」云フノデアッテ、殖エナイダラウト云フノト同ジコトデアリマシテ、何モ據リ所ハ無イ譯デアリマスカラ、旁、此案ハ原案ノ方ガ相當ト考ヘル

○伯爵廣澤金次郎君 司法省ノ政府委員ハ御出席ニナッテ居リマスカ

○議長(公爵德川家達君) 政府委員ハ居ラレマス

○伯爵廣澤金次郎君 政府委員ガ御出席ナラバ、唯今菊池武夫君ノ御説ヲ聞クト私ハ尤モノ改正ノヤウニ考ヘマスガ、贊否ヲ決スル前ニ、ドウゾ政府委員ガ細カク反對ナラ反對ノ理由ヲ一應御述ベアラムコトヲ希望イタシマス

〔政府委員齋藤十一郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(齋藤十一郎君) 政府ガ本案ニ反對イタシマスル理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、實ハ此案ハ御承知ノ通りニ、第八議會、第九議會ノ兩議會ニ引續キ衆議院カラ提出ニナリマシタ案デゴザイマス、當時政府ニ於キマシテハ絶對ニ反對ヲ致スト云フコトデハ無カッタノデアリマス、併ナガラ其後段々取

調ヲナシ實驗ヲ重ネマシタニ從ヒマシテ、唯今ノ情態ニ於キマシテ、マダ此制度ヲ維持スル必要ガアルト云フコトヲ認メマシタ次第ナノデアリマス、先キホド委員長カラモ御報告ゴザイマシタ通りニ元、此案ノ起リマシタ趣意ハ濫訴健訟ヲ防グト云フコトカラ出テ居ルノデゴザイマシテ、是ハ實ハ訴訟人ノ權利ヲ制限スルト云フ趣意デハナクシテ、却ッテ訴訟人ヲ保護スル趣意カラ出テ居ルノデ、申上ゲルマデモナク、俗ニ三百代言ト稱ヘル階級ノ者ガゴザイマシテ、濫ニ訴訟ヲ教唆シテ訴訟ガ第一審第二審ト經マシテ勝敗ガ付キマシタ場合ニモ、サウシテ其場合デアリマスカラ多數ノ日時、費用等ヲ使ッテ居リマスニ拘ラズ、益、人ノ弱點ニ乗ジマシテ上告ヲ教唆スルト云フ傾キガアルノデアリマス、斯様ナ弊害ヲ防ギ能ク利害得失ヲ考ヘテ上告ヲシテモ、爲ニナルモノデアレバ上告ヲスルヤウニサセタイ、斯ウ云フ趣意カラシテ費用ヲ納メサセテ、若シ惡ルイ上告ヲ致セバ其金ヲ官ニ沒收サレテ仕舞フ、斯ウ云フコトニ致シマシテ、篤ト利害得失ヲ考ヘル餘地ヲ與ヘル精神カラ出テ居ルノデアリマス、ソレデ左様ナ趣意デ出テ居ルノデアリマスカラシテ、今日此制度ヲ廢サウト致シマスルニハ濫訴健訟ノ弊害ガ全ク無クナッテ仕舞ッタ、斯ウ云フ事實ガ明カデナケレバナラヌト思フ、然ルニ政府ニ於キマシテハ左様ナ事實ガ今日發生シテ居ルトハ思ハナイ、矢張り濫訴ノ弊ガ引續イテアルモノト認メテ居リマス、先キホド菊池君ガ訴訟印紙ノ制度ガ行ハレタカラシテ、此豫納金ノ制度ハ要ラナイモノニナッタノデアルト云フ御話ガゴザイマシタガ、是ハ政府ノ見ル所トハ違ッテ居リマス、訴訟印紙ノ制度ト豫納金ノ制度トハ全ク別ノ趣意カラ出テ居ルノデ、訴訟印紙ノ制度ノ方ハ寧ロ是ハ手數料ト云フ方カラ出テ居リマスノデ、其證據ニハ明治十七年ニ訴訟印紙規則ガ發布ニナリマシテモ、矢張り上告豫納金ノ制度ハ廢セラレナカッタノデアリマス、全ク左様ナ趣意ガ違ッテ居ルノデアリマスカラ、片方ノ制度ガ行ハレタカラ要ラナクナッタト云フコトハ認メテ居リマセヌ、ソレカラ刑事ノ上告豫納金ハ廢止ニナッテ、民事ノ方ダケ存シテ置クノハ、ヲカシイデハナイカト云フ御說モ承リマシタガ、是ハ更ニ御一考ヲ煩ハシタイノハ、刑事ノ事件ト民事ノ事件トハ餘ホド異ルト思フ、人ノ身體生命、刑罰ヲ加ヘルト斯ウ云フ場合デゴザイマスカラ、斯様ナ制限ノ規則ト云フモノハ却ッテ弊害ガアルト云フ虞ガアルカモ知レヌ、サウ云フ理由カラシテ刑事ノ方ニハ餘リ政府デハ反對イタサナカッタ、民事ノ方ハ刑事トハ此點ニ於テ大ニ異ッテ居

ルト認メテ居ルノデアリマス、大體左様ナ趣意デゴザイマスカラ、政府ニ於キマシテハ先キホドノ委員長御報告ノ通りニ此案ノ否決ニナリマスヤウニ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 採決ヲ致シマス、本案ヲ第二讀會ニ移スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(公爵徳川家達君) 少數ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十五、質屋取締法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長大炊御門侯爵

質屋取締法中改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十二年三月十一日

右特別委員長

侯爵 大炊御門幾鷹

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔侯爵大炊御門幾鷹君 演壇ニ登ル〕

○侯爵大炊御門幾鷹君 本案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告イタシマス、本案ハ御承知ノ通り毎年提出ニナリマスル案デゴザイマスガ、今回ハ第五條第二項ノ次ヘ但書ヲ加ヘルト云フコトガ殖エタカノ様ニ思ハレマス、ソレデ此取締法ノ第五條ノ第二項ニハ「質屋ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ」斯ウ云フコトガ指定シテゴザイマス、其但書トシテ「但シ質置主ニ於テ之ヲ必要トナササルトキハ交付セサルコトヲ得」斯ウ云フコトヲ附加ヘマシタノデアリマス、デ其理由ハ質屋ガ質置主ニ對シマシテ、質札或ハ通帳ヲ交付シヤウトシマスルケレドモ、其質置主ノ大半ハ勞働者デアリマシテ、最モ細民ノ者ニナリマス、其著テ寢テ居リマシタ夜具或ハ蒲團ノ如キモノヲ質物ニ致シマシテ、サウシテ米或ハ野菜ヲ買ヒマシテ、朝食ヲ終ハルヤ否ヤ直ニ出稼ヲスルト云フ様ナ次第デアリマシテ、通帳或ハ質札等ノ交付ノ煩雜ヲ厭ヒマスノデアリマシテ、其質屋ガ強ヒテ之ヲ渡サウト致シマシテモ、ソレヲ拒ムヤウナコトガ往々アルサウデアリマス、若シモ此質札若クハ通帳ヲ強ヒテ質屋ガ交付シヤウトスレバ右申シマシタヤウナ次第デア

リマスガ、之ヲ渡サナイト云フコトニナリマス、同法ノ二十三條ニ據リマシテ罰金ニ處セラレト云フコトデアルサウデアリマス、ソレ故ニ此弊ヲ防ギタイ爲ニ此但書ガ出マシタノデアリマス、之ニ對シマシテ委員會ニ於キマシテハ色々質問應答モゴザイマシタガ、結局質屋トシテハ誠ニ都合ノ宜イ改正案デアラウケレドモ、萬一質札或ハ通帳ヲ交付シナイト云フコトニナリマシタナラバ、五圓デ受取ッタ品物ヲ質屋ノ帳簿ニ十圓ト書カレテモ證據立テルコトモ出來ナイ、質札或ハ通帳ガ無カッタナラバ五圓ヲ借りテ十圓ヲ仕拂ハナケレバナラヌヤウナコトガ出來ル虞レガアル、又代理ノ者ヲ差出シマシタトキニハ、是亦ドレ程ノ品物デアッタカ證據立テルモノガ無い、誠ニ都合デアアルカラト云フノデ、是ハ否決ヲスルコトニナリマシタ、ソレカラ第十六條、是ハチヨット御參考マデニ全文ヲ朗讀イタシマス「第十六條 質物ニシテ遺失物若ハ賊物ニ係ルトキハ警察官之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ」斯ウ云フ全文デゴザイマス、此全文ノ中「警察官」ノ下ニハ「占有者ノ承諾ヲ得又ハ檢事ノ指揮ヲ受ケテ」ト斯ウ云フ文字ヲ入レルノデアリマス、サウスルト斯ウ云フコトニナリマス、「質物ニシテ遺失物若ハ賊物ニ係ルトキハ警察官ハ占有者ノ承諾ヲ得又ハ檢事ノ指揮ヲ受ケテ之ヲ徵收シ」云々、斯ウナルノデアリマス、ソレデ斯ウ云フ文字ヲ入レマシタ理由ヲ申上ゲマスト、警察官ハ質屋取締法ノ第十五條ニ據リマシテ犯罪ノ嫌疑アル品物トカ或ハ遺失物デアルト認メマシタトキハ、イツデモ其質物或ハ質屋ノ帳簿ヲ檢査イタシマシタル上デ、其品物ヲ差押ヘマシタリ、或ハ帳簿ヲ警察ヘ差出サシムルコトガ出來マス、ソレデ往々本條ノ規定ヲ楯トシマシテ警察官ガ專斷ヲ以テ其質物ヲ被害者ニ還付スルコトガ出來マスノデ、ソレ故ニ質屋ガ非常ニ損害ヲ被ル爲ニ此十六條ヲ改正シナイト云フ案デアリマス、之ニ對シマシテ委員會ニ於キマシテハ元來此質屋取締法ナルモノハ行政處分デゴザイマシテ、檢事ノ指揮ヲ受ケルト云フコトニナリマス、占有者ガ承諾ヲスレバ宜シウゴザイマスガ、承諾ヲシナイトキハ檢事ノ指揮ヲ受ケナケレバナラス、然ラバ被害者ニ還付スルコトモ遲延スル弊ガ起ッテ來ル、兎ニ角是ハ行政處分ノモノデアアルカラ、檢事ノ指揮ヲ受ケルト云フコトハ不都合デアアル、ソレ故ニ唯警察官ノ取締ヲ嚴重ニスレバ事足ルノデアアルカラト云フノデ、是亦否決スルコトニナリマシタ次第デアリマス、此段御報告イタシテ置キマス

○議長(公爵徳川家達君) 採決ヲ致シマス、本案ヲ第二讀會ニ移スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 無シ

○議長(公爵徳川家達君) 起立者一人モゴザイマセヌカラ、否決セラレタモノト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十六、東京都制案、第十七、千代田縣設置ニ關スル法律案、第十八、東京都千代田縣組合法案、男爵松平正直君外五名發議、第一讀會

東京都制案

右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

明治四十二年三月六日

發議者

男爵松平 正直

男爵船越 衛

谷 森 眞男

山田 春三

江木 千之
穂積 八束

贊成者

伯爵正親町 實正

外百十五名

貴族院議長公爵徳川家達殿

東京都制

第一章 總則

第一款 都及其ノ區域

第二款 都住民及其ノ權利義務

第三款 都條例及都規則

第二章 都會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第三章 都參事會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第四章 都行政

第一款 都吏員ノ組織及任免

第二款 都官吏都吏員ノ職務權限及處務規程

第三款 給料及給與

第五章 都ノ財務

第一款 財産及收入

第二款 歳入出豫算及決算

第六章 都内一部ノ行政

第七章 都行政ノ監督

第八章 附則

東京都制

第一章 總則

第一款 都及其ノ區域

第一條 從來ノ東京市ノ區域ハ府縣都市町村ノ區域外トシ之ヲ都ノ區域ト爲ス

第二條 都ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務竝從來法令又ハ慣例ニ依リ府又ハ市ニ屬スル事務及將來法律勅令ニ依リ都ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 都ノ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ處分ニ付財産處分ヲ要スルトキハ内務大臣ハ關係アル都縣都市參事會及町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム

第四條 都ノ境界ニ關スル爭論ハ内務大臣之ヲ裁決ス其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

都ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ内務大臣之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ裁決及決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ關係團體ニ交付スヘシ

第五條 從來ノ東京市ノ區ハ之ヲ都ノ區トス

區ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ其ノ財産ニ關スル事務其ノ他法律勅令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ内務大臣ハ都參事會及關係區會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム此ノ場合ニ於テ財産處分ヲ要スルトキハ併セ

テ之ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ都ノ境界ニ涉ルトキハ第三條ノ規定ニ依ル

前條ノ規定ハ區ノ境界ニ之ヲ準用ス

區ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要スルトキハ都參事會及關係區會ノ議決ヲ經都長官ノ申請ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第二款 都住民及其ノ權利義務

第六條 都内ニ住所ヲ有スル者ハ都住民トス

都住民ハ本法ニ從ヒ財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ都ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第七條 帝國臣民ニシテ一戸ヲ構フル滿二十五年以上ノ男子二箇年以來都ノ住民ト爲リ都ノ負擔ヲ分任シ及都内ニ於テ直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ハ都公民トス但シ公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後二箇年ヲ經サル者及禁治產者準禁治產者竝六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項二箇年ノ制限ハ都會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ特免スルコトヲ得

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

境界變更ニ由リ都ニ編入セラレタル區域ニ於テ其ノ編入前住所ヲ有シ市町村ノ負擔ヲ分任シ及直接國稅ヲ納メタル年限ハ之ヲ第一項ノ年限ニ通算ス

第八條 都公民ハ都ノ選舉ニ參與シ都ノ名譽職ニ選舉セララル權利ヲ有シ都ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ退職シ又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ都會ノ議決ヲ經テ一箇年以上四箇年

以下都公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止年期以内其ノ者ノ負擔スヘキ都稅ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 業務ノ爲常ニ都内ニ居ルコトヲ得サル者

三 滿六十年以上ノ者

四 官職ノ爲都ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四箇年以上都ノ名譽職ニ任シ爾後四箇年ヲ經過セサル者

六 其ノ他都會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

本條ノ事件ニ付テハ都長官亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條 都公民ニシテ第七條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ其ノ公民權ヲ失フ

都公民タル者租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ停止ス家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スル迄又禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ都ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第三款 都條例及都規則

第十條 都ハ都住民ノ權利義務又ハ都ノ事務ニ關シ都條例ヲ設クルコトヲ得

都ハ都ノ營造物ニ關シ都規則ヲ設クルコトヲ得

都條例及都規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章 都會

第一款 組織及選舉

第十一條 都會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人ノ之ヲ選舉ス

都會議員ノ定數ハ都會ノ議決ヲ經都條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但シ六十人ヲ超ユルコトヲ得ス

都會議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス

第十二條 都公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國臣民ニシテ直接都稅ヲ納ムル者其ノ額都公民ノ最多ク納稅スル者三名中ノ一名ヨリモ多キトキハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖選舉權ヲ有ス但シ六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及第九條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國ノ法律ニ依リ設立シタル法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ

本條ノ直接都稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

第十三條 都ノ區ヲ以テ都會議員ノ選舉區トス各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員ノ數ハ都會ノ議決ヲ經都條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員ノ數ハ三名ヲ下ルコトヲ得ス

選舉人ハ住所ニ依リ所屬ノ選舉區ヲ定ム都内ニ住所ナキ者ハ直接都稅ノ賦課ヲ受ケタル物件又ハ營業所ノ所在ニ依リ若物件又ハ營業所ニシテ數選舉區ニ在ル場合ニハ之ニ對スル課稅ノ最多キ所ニ依リ其ノ之ニ依リ難キ場合ニハ本人ノ申出ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十四條 選舉人ハ各選舉區ニ於テ之ヲ三級ニ分ツヘシ

選舉人中直接都稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ一級トス但シ一級選舉人ノ數五名ニ滿タサルトキハ納額最多キ者五名ヲ以テ一級トス

一級選舉人ノ外直接都稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル直接都稅ノ總額中一級選舉人ノ納ムル額ヲ除キ其ノ殘額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ爾餘ノ選舉人ヲ三級トス但シ前項但書ノ規定ハ二級選舉人ノ場合ニ之ヲ準用ス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ其ノ都内ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若住所ヲ有スル年數同シトキハ年長者ヲ以テシ年齡同シトキハ區長抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員ハ選舉人每級各別ニ其ノ三分ノ一ヲ選舉ス若等分シ難キトキハ端數二名ノ場合ハ之ヲ一級及三級ニ配當シ一名ノ場合ハ之ヲ二級ヨリ選出スヘキ數ニ加フヘシ

被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラス又其ノ選舉區内ノ者ニ限ラサルモノトス

本條ノ直接都稅ノ納額ニ關シテハ第十二條第四項ノ規定ヲ準用ス

第十五條 選舉權ヲ有スル都公民ニシテ直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

一 都ノ官吏及有給吏員

二 檢事警察官吏及收稅官吏

三 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

四 小學校教員

前項ニ掲ケサル官吏ニシテ當選シ之ニ應セムトスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

都ニ對シ工事ノ請負物件勞力其ノ他ノ供給契約ヲ爲シ若ハ都ノ爲金錢出納ノ取扱ヲ爲ス者又ハ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ役員ハ被選舉權ヲ有セス

第十六條 都會議員ハ名譽職トス

都會議員ノ任期ハ四箇年トス

議員ノ配當ヲ變更シタル爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但シ關員アルトキハ其ノ關員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第十七條 都會議員中關員アルトキ又ハ議員ノ配當ヲ變更シタル爲選舉ヲ要スルトキハ三箇月以内ニ之ヲ行フヘシ

前項ニ依リ同時ニ二名以上ノ議員ヲ選舉セヘキトキハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

補關議員ハ前任者ノ殘任期間在任ス

補關議員ヲ除ク外本條第一項ニ依リ選舉セラレタル議員ハ次ノ總選舉迄在任ス

補關議員ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉區及選舉等級ニ於テ之ヲ選舉スヘシ

第十八條 區長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ十月十五日迄ニ其ノ區内ノ選舉人ノ資格ヲ記載シタル選舉人名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名簿ハ十月二十日ヨリ十五日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄區役所又ハ其ノ他ノ場所ニ於テ之ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ

異議アルトキハ縱覽期限内ニ之ヲ都長官ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ都長官ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定シ其ノ決定ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ區長直ニ之ヲ修正スヘシ

前項都長官ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

選舉人名簿ハ十二月十五日ヲ以テ確定期限トシ確定名簿ハ次年ノ十二月

十四日迄之ヲ据置クヘシ

訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ區長ハ確定期限ノ前後ニ拘ラス直ニ之ヲ修正スヘシ

本條ニ依リ區長ニ於テ名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ要領ヲ告示スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラルヘキ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

異議ノ決定確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ九月十五日ノ現在ニ依リ更ニ名簿ヲ調製スヘシ但シ名簿調製ノ期日迄ニ選舉權ヲ失ヒタル者ハ名簿ニ登錄スル限ニ在ラス

天災事變等ニ依リ名簿ノ喪失シタルトキ亦前項ニ同シ

前二項ニ依リ名簿ノ調製縱覽修正及確定ニ關スル期日及期限等ハ都長官ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 選舉ハ都長官ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選舉ヲ行フヘキ選舉區及等級選舉會場投票ノ日時並選舉區及等級毎ニ選舉スヘキ議員數ヲ記載シ選舉ノ日ヨリ少クモ二十日前ニ之ヲ發スヘシ

各選舉區ノ選舉ハ同日時ニ之ヲ開始スヘシ

選舉ヲ行フ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ

第二十條 區長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ス

區長ハ臨時ニ其ノ選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ二名乃至六名ノ立會人ヲ選任スヘシ

選舉立會人ハ名譽職トス

第二十一條 選舉人ノ外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉會場外ニ退出セシムヘシ

前項ニ依リ選舉會場外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉會場閉鎖後ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ
投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票簿ニ捺印シ投票スヘシ

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ但シ確定名簿ニ登録セラレタル毎級選舉人ノ數其ノ選舉スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用フヘシ
投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス
投票用紙ハ都長官ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用フヘシ

選舉人名簿ノ調製後選舉人ノ所屬選舉區ニ異動ヲ生スルコトアルモ其ノ選舉人ハ前所屬ノ選舉區ニ於テ選舉ヲ行フヘシ

第二十三條 第十二條第二項及第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得但シ滿二十五年以上ノ男子ニ非サル者禁治產者及準禁治產者ハ必ス代人ヲ以テスヘシ

代人ハ帝國臣民ニシテ滿二十五年以上ノ男子ニ限ル

第七條第一項但書ニ當ル者第八條ニ依ル公民權停止中ノ者及第九條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ代人タルコトヲ得ス又一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ代人ハ委任狀其ノ他代理ヲ證スル書面ヲ選舉長ニ示スヘシ

第二十四條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス但シ連名投票ノ法ヲ用キタル場合ニ於テハ第一號及第六號ニ該當スルモノ及其ノ記載ノ人員其ノ選舉スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無効トシ第二號第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ

二 現ニ都會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ

四 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所

又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

第二十六條 都會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ各級ニ於テ選舉スヘキ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登録セラレタル各級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

二回選舉ニ於テ仍當選者選舉スヘキ議員數ニ達セサルトキハ前項但書ヲ適用セス

前二項ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第二十七條 選舉長ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記載シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二名以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

選舉錄ハ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ但シ選舉及當選ノ效力ニシテ選舉人名簿確定ノ日ヨリ一年以内ニ確定シタル場合ニ於テハ選舉人名簿ハ仍名簿確定ノ日ヨリ一年間之ヲ保存スヘシ

第二十八條 當選者定マリタルトキハ區長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ且同時ニ選舉錄ノ寫ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ都長官ニ報告スヘシ
當選者ニシテ當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ都長官ニ申立ツヘシ但シ第十五條第三項ノ官吏ニシテ當選シタル者ハ二十日以内ニ其ノ當選ニ應スルヤ否ヲ都長官ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

一人ニシテ數級又ハ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受タル日ヨリ五日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ都長官ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス但シ第十五條第三項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本項ニ定ムル期間ヲ二十日トス

第二十九條 都會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

二人以上投票同數ニシテ年長ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ由テ當選セサリシ者ヲ以テ當選者トス但シ年少ニ由テ當選セサリシ者二人以上アルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ當選者ヲ定ム

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セサリシ者ヲ以テ當選者トス但シ抽籤ノ爲當選セサリシ者二人以上アルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

第三十條 當選者其ノ當選ヲ辭セサルトキハ都長官ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

第三十一條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ前條告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ都長官ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ都長官ハ七日以内ニ都參事會ノ決定ニ付スヘシ都參事會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

都長官ニ於テ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第二十八條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ都參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

本條都參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ都長官亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十二條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第三十三條 選舉又ハ當選ニシテ無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲又ハ被選舉權ヲ有セサル爲當選無効ト確定シタルトキハ第二十六條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ム

第三十四條 都會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ都會之ヲ決定ス

都長官ニ於テ都會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ都會ノ決定ニ付スヘシ

本條都會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ都長官亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

都會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十五條 本款ニ規定スル異議ノ決定ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十六條 都會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款 職務權限及處務規程

第三十七條 都會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ

一 歲入出豫算ヲ定ムル事

二 決算報告ニ關スル事

三 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料手数料加入金都稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

四 不動産ノ處分及取得ニ關スル事

五 基本財産及積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事

六 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

七 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令中ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

八 其ノ他法令ニ依リ都會ノ權限ニ屬スル事項

第三十八條 都會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ都參事會ニ委任スルコトヲ得

第三十九條 都會ハ法律勅令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第四十條 都會ハ都ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ都長官又ハ内務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第四十一條 都會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

都會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ都會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 都會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ

議長副議長ハ議員ノ總選舉毎ニ之ヲ改選スヘシ

第四十三條 議長副議長ノ選舉ヲ終ル迄ハ都長官又ハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四十四條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アル

トキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

第四十五條 都長官及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議

事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之

カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十六條 都會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ三十日以内トス臨時會ハ必要アル

場合ニ於テ其ノ事件ニ限リ之ヲ開ク其ノ會期ハ七日以内トス

臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其ノ開會中急施ヲ要ス

ル事件アルトキハ都長官ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

第四十七條 都會ハ都長官之ヲ招集ス

招集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ十四日前ニ告示スヘシ但シ急施ヲ要スル場

合ハ此ノ限ニ在ラス

都會ハ都長官之ヲ開閉ス

第四十八條 都會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコ

トヲ得ス

第四十九條 都會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決

スル所ニ依ル

第五十條 議長及議員ハ自己又ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ

關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ都會ノ同意ヲ得

タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十一條 法律勅令ノ規定ニ依リ都會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ本法中別

段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數

ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得

タル者二名ヲ取リ之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同

數者アルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此

ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス若同數ナルトキ

ハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第二十

二條及第二十四條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ都會

之ヲ議決ス

前項ノ選舉ニ付テハ都會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ

用ウルコトヲ得其ノ連名投票ヲ用ウル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第五十二條 都會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 都長官ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聴禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須キス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十三條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開

閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十四條 都會議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス

議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得

ス

第五十五條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員

アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ

議長ハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要

ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉

ツルコトヲ得

第五十六條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲

ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル

場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ

於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員又

ハ第四十五條ノ列席者ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第五十八條 都會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第五十九條 議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名

ヲ記載セシムヘシ會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルコトヲ要ス

其ノ議員ハ都會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ都長官ニ報告スヘシ

第六十條 都會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ內務大臣ノ許可ヲ受

クヘシ

會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ都會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 都參事會

第一款 組織及選舉

第六十一條 都ニ都參事會ヲ置キ都長官都高等官三名及名譽職參事會員八名ヲ以テ之ヲ組織ス

都高等官ニシテ都參事會員タルヘキ者ハ內務大臣之ヲ命ス

第六十二條 名譽職參事會員ハ都會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

都會ハ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘシ

前二項ノ選舉ニ關シテハ第二十二條第二十四條第二十六條及第二十九條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ都會之ヲ議決ス

名譽職參事會員中關員アルトキハ都長官ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其ノ順序ハ得票ノ數ニ依リ得票ノ數同シトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ抽籤ニ依ル仍關員ヲ生シタル場合ニ於テハ臨時補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

名譽職參事會員及其ノ補充員ハ都會議員ノ總選舉毎ニ之ヲ改選スヘシ但シ名譽職參事會員ハ後任者就職ノ日迄在職スルモノトス

第六十三條 都參事會ハ都長官ヲ以テ議長トス都長官故障アルトキハ高等官參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第二款 職務權限及處務規程

第六十四條 都參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 都會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 都會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ都長官ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ都會ニ代テ議決スル事

三 都長官ヨリ都會ニ提出スル議案ニ付都長官ニ對シ意見ヲ述フル事

四 都會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財産及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事

五 都費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法令中ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 都ニ係ル訴訟訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事

七 其ノ他法令ニ依リ都參事會ノ權限ニ屬スル事項

第六十五條 都參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選舉シ之ヲシテ都ニ係ル出納ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ檢査ニハ都長官又ハ其ノ指命シタル官吏若ハ吏員之ニ立會フコトヲ要ス

第六十六條 第四十條第四十一條第四十五條第四十七條第三項第四十九條

第五十一條第五十三條乃至第五十五條第五十八條及第五十九條第一項ノ規定ハ都參事會ニ之ヲ準用ス

第六十七條 都參事會ハ都長官之ヲ招集ス名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ都長官ハ都參事會ヲ招集スヘシ

都參事會ノ會期ハ都長官之ヲ定ム

第六十八條 都參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第六十九條 都參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第六十四條第二號ノ議決ヲ爲ストキハ都長官及高等官參事會員ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第七十條 第五十條ノ規定ハ都參事會ニ之ヲ準用ス但シ同條ノ規定ニ依リ參事會員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ都長官ハ補充員

ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第六十二條第四項ノ順序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ都會議員ニシテ其事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其ノ關員ヲ補充スヘシ

議長及其ノ代理者共ニ除斥セラレタルトキハ年長ノ會員ヲ以テ假議長ト爲スヘシ

第四章 都行政

第一款 都吏員ノ組織及任免

第七十一條 都ハ有給ノ都吏員ヲ置クコトヲ得其ノ定數ハ都會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

前項ノ都吏員ハ都長官之ヲ任免ス

第七十二條 都ニ都收入役區ニ區收入役ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ都長官之ヲ命ス

第七十三條 都ハ都會ノ議決ヲ經都條例ヲ以テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ第一項ノ都條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第二款 都官吏都吏員ノ職務權限及處務規程

第七十四條 都長官ハ都ヲ統轄シ都ヲ代表シ其ノ行政事務ヲ擔任ス

都長官ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 都條例及都規則ヲ發布スル事

二 都費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事

三 都會及都參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事

四 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

五 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

六 證書及公文書類ヲ保管スル事

七 法令又ハ都會若ハ都參事會ノ議決ニ依リ使用料手數料加入金都稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

八 其ノ他法令ニ依リ都長官ノ職權ニ屬スル事項

第七十五條 都長官ハ議案ヲ都會ニ提出スル前之ヲ都參事會ノ審査ニ付シ若都參事會ト其ノ意見ヲ異ニスルトキハ都參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ都會ニ提出スヘシ

第七十六條 都長官ハ都ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ都吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第七十七條 都長官ハ都吏員ヲ指揮監督シ其ノ任免ニ係ル都吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

都長官ハ都吏員ノ懲戒ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命シ且場合ニ依リ給料ヲ支給セサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二箇年間都ノ公職ニ選舉セラレ又ハ任命セラルルコトヲ得ス

第七十八條 都會又ハ都參事會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ都長官ハ其ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ

前項取消處分ニ不服アル都會又ハ都參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

都會又ハ都參事會ノ議決公益ヲ害シ又ハ其ノ議決都ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ都長官ハ其ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第七十九條 都長官ハ期日ヲ定メテ都會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第八十條 都會又ハ都參事會召集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ都長官ハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

第五十條第七十條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

都會又ハ都參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ都會ニ於テ其ノ召集前告示セラレタル事件ニ關シ議案ヲ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

都參事會ノ決定スヘキ事項ニ關シテハ前二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル都長官ノ決定ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ都會又ハ都參事會ニ報告スヘシ

第八十一條 都參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ都長官ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ都長官ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ都參事會ニ報告スヘシ

第八十二條 都參事會ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ハ其ノ議決ニ依リ都長官ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第八十三條 官吏ノ都行政ニ關スル職務關係ハ本法中規定アルモノヲ除クノ外其ノ國ノ行政ニ關スル職務關係ノ例ニ依ル

第八十四條 都收入役ハ都ノ出納其ノ他會計事務及法令ノ定ムル所ニ依リ

國ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル
都收入役故障アルトキハ都長官ノ命ヲ受ケタル官吏又ハ吏員其ノ職務ヲ代理ス

第八十五條 區長ハ都長官ノ指揮監督ヲ承ケ區ノ事務ヲ管掌シ區ヲ代表ス

第七十四條第二項第二號乃至第七號ノ規定ハ區ノ事務ニ關シテハ之ヲ區長ニ準用ス

區長ハ都長官ノ指揮監督ヲ承ケ都長官ノ委任ニ依リ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ區内ニ關スル都ノ行政事務ヲ管掌シ又ハ都長官ノ命ヲ承ケ區内ニ關スル都ノ行政事務ヲ補助執行ス

本條ニ掲載スル事務及區長ノ管掌スル國ノ行政事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ都ノ負擔トス

第八十六條 區收入役ハ區ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル

區收入役ハ都收入役ノ指揮監督ヲ承ケ都收入役ノ委任ニ依リ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ區内ニ關スル國及都ノ出納及會計事務ヲ掌リ又ハ都收入役ノ命ヲ承ケ區内ニ關スル都收入役ノ事務ヲ補助執行ス

本條ニ掲載スル事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ都ノ負擔トス

第八十四條第二項ノ規定ハ之ヲ區收入役ニ準用ス

第八十七條 都ノ有給吏員ハ都長官ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第八十八條 委員ハ都長官ノ指揮監督ヲ承ケ都有財産又ハ都ノ營造物ヲ管理シ其ノ他都行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第八十九條 都ノ事務ニ關スル處務規程ハ都長官之ヲ定ム

第三款 給料及給與

第九十條 有給都吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ都長官之ヲ定ム

第九十一條 都會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

費用辨償額及其ノ支給方法ハ都會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ都長官之ヲ定ム若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ定ム

第九十二條 有給都吏員ノ退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ

支給方法ハ都會ノ議決ヲ經都條例ヲ以テ之ヲ定ム

第九十三條 給料旅費費用辨償退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ都長官ニ申立ツルコトヲ得前項ノ異議ハ之ヲ都參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ都長官亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十四條 給料旅費費用辨償退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料其ノ他諸給與ハ都ノ負擔トス但シ區會議員ノ費用辨償ハ區ノ負擔トス

第五章 都ノ財務

第一款 財産及收入

第九十五條 都ハ不動産積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ

臨時ニ取得シタル財産ハ基本財産ニ加入スヘシ但シ寄附ニ係ル物件ニシテ寄附者其ノ使用ノ目的ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

都ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ基本財産ニ加入スヘキモノノ全部又ハ一部ヲ特別ノ基本財産又ハ積立金穀等ニ加入スルコトヲ得

第九十六條 舊來ノ慣行ニ依リ數個人又ハ都内ノ一部ニ於テ特ニ營造物又ハ財産ヲ使用スル權利ヲ有スルトキハ其ノ舊慣ニ依リ都會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其ノ舊慣ヲ變更又ハ廢止スルコトヲ得ス

前項ノ營造物又ハ財産ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ都會ノ議決ヲ經テ之ヲ許可スルコトヲ得

第九十七條 都ハ前條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第九十八條 都ハ營造物又ハ公共ノ使用ニ供スル財産ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

數個人又ハ都内ノ一部ヲ利スル營造物又ハ財産ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得都ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十九條 都ハ第九十六條及前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ都會

ノ議決ヲ經テ都規則ヲ設クルコトヲ得

第百條 財産ノ賣却貸與工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ都會ノ同意ヲ得ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百一條 都ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第百二條 都ハ其ノ必要ナル費用及從來法令若ハ慣例ニ依リ府若ハ市ノ負擔ニ屬シ又ハ將來法律勅令ニ依リ都ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

都ハ其ノ財産ヨリ生スル收入使用料手數料過料過意金其ノ他法律勅令ニ依リ都ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ都稅ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第百三條 都稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 國稅ノ附加稅

二 特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ都ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トス

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徵收スルモノトス

第百四條 三箇月以上都内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ廻リ都稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百五條 都内ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖都内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ都内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル都稅ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ但シ國ノ事業又ハ行爲ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第百六條 納稅者ノ都外ニ於テ所有シ使用シ若ハ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ都外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ都稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

住所滞在都及府縣ニ涉ル者ノ收入ニ對シ關係都府縣市町村ニ於テ課稅スルハ命令ノ定ムル所ニ依ル都及府縣ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且

其ノ營業又ハ其ノ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係都府縣市町村ニ於テ附加稅ヲ賦課スルトキ亦同シ

第百七條 所得稅法第五條ニ掲クル所得ニ對シテハ都稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社遙拜所寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物ニシテ其ノ境内地ニ存在スルモノ及其ノ境内地教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ都稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ賃貸者ニ賦課スル場合及住宅ヲ以テ教會所說教所ノ用ニ充ツルモノハ此ノ限ニ在ラス

國府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ都稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ賃貸者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ都稅ヲ賦課スルコトヲ得ス
前各項ノ外都稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

皇族ニ係ル都稅ノ賦課ハ從來ノ例ニ依ル

第百八條 數個人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

區ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ都會ノ議決ヲ經其ノ區ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

數個人又ハ區ヲ利スル財產ニ付テモ亦本條ノ例ニ依ル

第百九條 數個人又ハ都内ノ一部ニ對シテ利益ケル事件ニ關シテハ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第百十條 都稅及其ノ賦課徵收ニ關シテハ法律中規定アルモノノ外勅令ノ定ムル所ニ依ル

第百十一條 都ハ急迫ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ納稅義務者ノ全部又ハ一部ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役ヲ課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

第百十二條 都稅ノ賦課ニ關シ必要ナル場合ニ於テハ當該官吏吏員ハ日出ヨリ日沒迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅營業所ニ臨檢シ又

ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第百十三條 都長官ハ納税者中特別ノ事情アル者ニ對シ會計年度内ニ限り納税延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ都參事會ノ議決ヲ經ヘシ

都長官ハ特別ノ事情アル者ニ限り都參事會ノ議決ヲ經テ都税ヲ減免スルコトヲ得

第百十四條 使用料手数料及特別税ニ關スル事項ニ付テハ都會ノ議決ヲ經都條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其ノ條例中ニハ二十圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得營造物又ハ財産ノ使用方法ニ關スル都規則ニ付亦同シ

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ都長官之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百十五條 都税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵税令書ノ交付後三箇月以内ニ都長官ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ都長官ニ申立ツルコトヲ得

本條ノ異議ハ之ヲ都參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

使用料手数料加入金ノ徵收及夫役現品ノ賦課ニ關シテモ亦前數項ノ例ニ依ル

本條ノ事件ニ付テハ都長官亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百十六條 都税使用料手数料加入金過料過怠金其ノ他都ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ都長官ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲ササルトキハ都長官ハ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ都條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

滞納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期間内ニ仍之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徵收金ハ國ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

本條都長官ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第百十七條 都ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ都ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲メ又ハ天災事變等ノ爲メ已ムヲ得サル場合ニ限り都會ノ議決ヲ經テ都債ヲ起スコトヲ得

都債ヲ起スニ付都會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

都ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス都參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款 歲入出豫算及決算

第百十八條 都長官ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ遅クトモ年度開始ノ一箇月前ニ都會ノ議決ヲ經ヘシ

都ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ都會ニ提出スルトキハ都長官ハ併セテ財産表ヲ提出スヘシ

第百十九條 都長官ハ都會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第百二十條 都費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ都會ノ議決ヲ經テ其ノ年

期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第百二十一條 豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

豫備費ハ都會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百二十二條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ内務大臣ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百二十三條 都ハ都會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第百二十四條 都ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第百二十五條 都ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ且每會計年度少クトモ二回臨時検査ヲ爲スヘシ

検査ハ都長官又ハ其ノ命ヲ受ケタル官吏吏員之ヲ爲シ臨時検査ニハ名譽職參事會員ニ於テ互選シタル參事會員二名以上ノ立會ヲ要ス

第二百二十六條 都ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ限トス

決算ハ出納閉鎖後一箇月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ都長官ニ提出スヘシ

決算ハ次ノ通常會ニ於テ之ヲ都會ニ報告スヘシ

都長官ハ決算ヲ都會ニ報告スル前都參事會ノ審査ニ付スヘシ若都長官ト都參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ都長官ハ都參事會ノ意見ヲ決算ニ添ヘ都會ニ提出スヘシ

決算ハ之ヲ内務大臣ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第二百二十七條 豫算調製ノ式及費目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規程ハ内務大臣之ヲ定ム

第六章 都内一部ノ行政

第二百二十八條 區ニ區會ヲ置ク

區會議員ハ都ノ名譽職トス

區會議員ノ定員任期及選舉ニ付テハ都會議員ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百二十九條 區會ハ區有財産其ノ他區ノ事務ニ關シ第三十七條第一號乃至第七號ニ記載スル事項及區ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事項其ノ他法令ニ依リ區會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス

前項ノ外區會ニ關シテハ都會ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百十條 區會ニ關スル費用及區有財産其ノ他區ノ事務ニ關シ必要ナル費用ハ區ノ負擔トス

前項ノ外區ハ法律勅令ニ依リ區ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第三百十一條 本法ニ規定スルモノノ外區ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 都行政ノ監督

第三百十二條 都ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第三百十三條 本法ニ規定スル異議ハ處分ヲ爲シタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ申立ツヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

本法ニ規定スル行政訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ

提起スヘシ

本法ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

本法ニ規定スル異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴訟法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第三百十四條 内務大臣ハ都行政ノ法令ニ背戾セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ又ハ其ノ事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ内務大臣ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徴シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

内務大臣ハ都行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得

第三百十五條 内務大臣ハ都ノ豫算中不適當ト認ムルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

第三百十六條 内務大臣ハ勅裁ヲ經テ都會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

都會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

解散後始テ都會ヲ招集スルトキハ都長官ハ第四十六條第二項ノ規定ニ拘ラス内務大臣ノ許可ヲ得テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

第三百十七條 都吏員ノ服務規律ハ内務大臣之ヲ定ム

第三百十八條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 都條例及都規則ヲ設ケ及改廢スル事

二 學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ又ハ大ナル變更ヲ爲ス事

三 使用料手数料加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

四 基本財産ノ處分ニ關スル事

五 特別基本財産及積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事

六 第九十六條ノ處分ヲ爲ス事

七 寄附又ハ補助ヲ爲ス事

八 不動産ノ處分ニ關スル事

九 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

十 第百八條ニ依リ數個人又ハ區ニ費用ヲ負擔セシムル事

十一 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

十二 特別會計ヲ設クル事

第三百三十九條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 都債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ變更スル事但シ第三百十七條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 特別稅ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三 直接國稅二分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事但シ法律勅令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

四 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

五 法律勅令ノ規定ニ依リ國ヨリ交付スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第四百十條 都ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事件ニ付テハ主務大臣ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第四百十一條 都ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事件中其ノ輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ許可ヲ經スシテ處分スルコトヲ得

第四百十二條 内務大臣ハ委員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

第七十七條第三項ノ規定ハ本條ニ依リ解職セラレタル者ニモ之ヲ適用ス

第八章 附則

第四百十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四百十四條 本法施行ノ際都會都參事會及區會ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ル迄ノ間都長官之ヲ行フ

第四百十五條 本法施行ノ際議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ノ調製ニ限リ第十八條ノ期日及期限等ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ選舉人名簿ハ翌年調製スル選舉人名簿確定ノ日迄其ノ效力ヲ有ス

第四百十六條 本法施行ノ日迄引續キ東京市ニ於テ住所ヲ有シ其ノ負擔ヲ分任シ直接國稅ヲ納メタル年限ハ之ヲ第七條第一項ノ年限ニ通算ス

第四百十七條 本法ニ定ムル直接稅ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

ス

第四百十八條 從來ノ東京市ノ營造物及財産ハ本法施行ノ日ヨリ都ニ屬ス

本法施行ノ際從來ノ東京府ノ營造物及財産ノ處分ハ内務大臣之ヲ定ム

第四百十九條 府縣稅ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クル迄都稅ニ關シ仍其ノ效力ヲ有ス

第五百十條 東京市區改正ニ關スル法令ハ本法施行ノ爲其ノ效力ヲ失フコトナシ

第五百十一條 東京都ニ於テハ現行ノ法令中府又ハ市トアルハ都ニ、府知事又ハ市長トアルハ都長官ニ該當シ其ノ他總テ此ノ例ニ依ル但シ此ノ例ニ依リ難キモノハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第五百十二條 本章ニ規定スルモノノ外本法施行ノ爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

千代田縣設置ニ關スル法律案

右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

明治四十二年三月六日

發議者

男爵松平 正直 男爵船越 衛

谷 森 眞男 山田 春三 江木 千之

贊成者 伯爵正親町 實正 穂積 八束

外百十五名

貴族院議長公爵德川家達殿

第一條 東京府ヲ廢シ千代田縣ヲ置ク

從來ノ東京府ノ區域中東京都ノ區域ト爲スヘキモノヲ除キ其ノ他ヲ以テ千代田縣ノ區域ト爲ス

第二條 本法施行ノ際縣會及縣參事會ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ル迄ノ間縣知事之ヲ行フ

第三條 本法施行ノ際議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ノ調製ニ限リ府縣制第九條乃至第十二條ノ期日及期限等ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムル

コトヲ得但シ其ノ選舉人名簿ハ翌年調製スル選舉人名簿確定ノル迄其ノ效力ヲ有ス

第四條 現行ノ法令中東京府郡部トアルハ千代田縣ニ該當ス

第五條 本法ハ東京都制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 本法ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

東京都千代田縣組合法案

右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

明治四十二年三月六日

發議者

男爵松平 正直 男爵船越 衛 江木 千之

谷 森 眞 男 山 田 春 三 穂 積 八 束

贊成者

伯爵正親町 實正

外百十五名

貴族院議長公爵德川家達殿

東京都千代田縣組合法

第一條 東京都及千代田縣ノ共同事務ヲ處理スル爲東京都千代田縣組合ヲ置ク

組合ニ於テ處理スヘキ共同事務ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

組合ハ法人トス

第二條 東京都千代田縣組合ニ組合會ヲ置ク

組合會議員ハ名譽職トス

組合會議員ノ定數ハ東京都會及千代田縣會ノ議員定數ヲ合シタル數ノ三分一トス但シ端數ハ之ヲ除算ス

第三條 組合會議員ハ東京都會及千代田縣會ニ於テ議員中ヨリ選舉ス

各會ニ於テ選舉スヘキ組合會議員ノ數ハ內務大臣之ヲ定ム

第四條 組合會議員ノ定數及其ノ配當ハ第五條第一項ニ依リ選舉ヲ行フ場

合ニ非サレハ之ヲ變更セス

第五條 組合會議員ノ選舉ハ東京都會及千代田縣會ニ於テ各其ノ總選舉毎

ニ之ヲ行フヘシ

組合會議員ノ定數又ハ配當ヲ變更シタル爲解任又ハ選舉ヲ要スル場合及補闕選舉ニ關シテハ府縣制第七條第三項及第八條ノ規定ヲ準用ス

第六條 組合會ノ議長及副議長ハ前條第一項ニ依リ選舉ヲ行フ毎ニ之ヲ改選スヘシ

第七條 組合會ハ東京都會及千代田縣會ニ於テ選舉スヘキ組合會議員定數各半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第八條 組合會ノ職務權限及處務規程ニ關シテハ本法中別ニ規定スルモノヲ除クノ外都制第二章第二款ノ規定ヲ準用ス

第九條 東京都千代田縣組合ニ組合參事會ヲ置キ都長官高等官三名及名譽職參事會員八名ヲ以テ之ヲ組織ス

第十條 名譽職參事會員ノ選舉ニ關シテハ第三條第四條及第五條第一項ノ規定ヲ準用ス

東京都會及千代田縣會ハ各其ノ選舉スヘキ名譽職參事會員ノ闕員ヲ補充スル爲之ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘシ

第四條及第五條第一項ノ規定ハ名譽職參事會員ノ補充員ノ選舉ニモ之ヲ準用ス

名譽職參事會員ノ配當ヲ變更シタル爲名譽職參事會員及其ノ補充員ノ解任又ハ選舉ヲ要スル場合ニ關シテハ府縣制第七條第三項及第八條第一項

第三項ノ規定ヲ準用ス

第十一條 組合參事會ノ組織及選舉並職務權限及處務規程ニ關シテハ本法中別ニ規定スルモノヲ除クノ外都制第三章ノ規定ヲ準用ス

第十二條 組合會議員及名譽職參事會員ノ費用辨償ニ關シテハ都制第四章第三款ノ規定ヲ準用ス

第十三條 東京都長官ハ東京都千代田縣組合ヲ統轄シ之ヲ代表シ其ノ行政事務ヲ擔任ス

都長官其ノ他官吏ノ組合行政ニ關スル職務關係及處務規程ニ付テハ府縣制第四章第二款ノ規定ヲ準用ス

第十四條 組合ノ費用ハ財産ヨリ生スル收入其ノ他ノ收入ヲ以テ充ツルモノノ外之ヲ東京都及千代田縣ニ分賦スヘシ

組合費用分賦ノ割合ハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

組合費用ノ分賦方法ニ關スル必要ノ事項ハ内務大臣之ヲ定ム

第十五條 府縣稅ニ關スル事項ヲ除クノ外府縣制第五章ノ規定ハ之ヲ組合ノ財務ニ準用ス

第十六條 組合ノ監督ニ關シテハ府縣制第六章ノ規定ヲ準用ス

第十七條 本法ニ規定スルモノノ外東京都千代田縣組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 本法ハ東京都制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 本法施行ノ際組合會及組合參事會ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ル迄ノ間東京都長官之ヲ行フ

第二十條 本法施行ノ爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○穗積八束君 發議ノ趣旨ヲ述ベタウゴザイマス
○議長(公爵德川家達君) 御登壇ヲ請ヒマス

〔穗積八束君演壇ニ登ル〕

○穗積八束君 此案ハ實ハ當院ノ宿論デゴザイマシテ、新ニ茲ニ御披露ヲ致スマデモナイコト、思フノデアリマス、既ニ三回モ大多數ヲ以テ議決ニナツテ居リマス、今私ドモガ此案ヲ我物顔ニ出スモ憚ル位ナコトデゴザイマシテ、實ハ是ハ諸君ノ御自身ノ御案デアリマス、故ニ深ク其理由ヲ辯明スルマデモナクシテ、諸君御自身ノ御案デアッテ全會一致若クハ大多數ヲ以テ直チニ是ガ通過イタシマシテ、又衆議院ノ公平ナル審査ヲ請フヤウニ致スト云フ順序ニナルコト、存ジマス、此案ノ内容ハモウ昨年モ一昨年モ其前モ度々諸君モ御聽キアキニナツテ居ルコトデアラウ、我々モモウ述ベアイタ所デアッテ御尋ネガアレバ知ツテ居ルダケハ申シマスガ、全ク是ハ昨年ノ案ト同一ナコトデアルト御覽クダサツテ少シモ間違ヒハアリマセヌ、昨年ノ案ニ多少筆ヲ加ヘマシタ所ガゴザイマス、ガソレハ唯、新シク刑法ガ實施サレマシタル結果等ニ據リマシテ、中ニ公權剝奪若クハ公權停止等ノコトガ規定シテアリマシタガ、ソレ等ノ文字ガソレノ現行法ニ對シテ差支ヘマヌルカラ、之ヲ實質ヲ其儘ニシテ形ダケ削リマシタ譯デゴザイマス、文字ハ削ッテアリマスルガ、矢張り昔ナラバ重罪ヲ犯シタ者ハ政權ヲ行フコトガ出來ヌ等ノ實質ハ同ジデアリマス、其他多少ノ字句ヲイヂリマシタガ、誠ニ唯「テニヲハ」ノ改正ノ如キモノデアリマシテ、一々御報告ハ致シマセヌ、ト申シテ此案ノ提出ノ理由ヲ一言モ述ベズニ退クモ餘リ體裁ガ惡ルウゴザイマスガ……此案ノ必要ナルコ

トハ最早是コソ輿論ト申スモノデ、何人モ疑ハザルコトデアラウト思ヒマス、併シ其細目手段方法ニ至ッテハ種々議論ガアルカモ知レヌ、我々ドモ、此東京市ノ行政ヲ整ヘタイト思フコトノ熱心ニ於テ頗ル切ナルモノデゴザイマス、而シテ今日ノ行政ノ巧ク運バナイト云フコトヲ考ヘテ見マスレバ、我々自身ノ罪、即チ市民全體ノ罪モアルガラウト思ヒマス、必シモ今日東京市ノ行政ニ當ッテ居ル當局ノ人ノミヲ責ムベキモノデハナク、東京市民タル我々ノ罪ガ多イデアラウト思ヒマス、故ニ一方ニ於テハ此東京市民ノ全體ノ空氣ヲ洗濯イタシマシテ、サウシテ我々人心ヲ新ニシテ此制度ノ運用ニ臨マナケレバナラヌノデアリマス、併シ之ト同時ニ制度其モノ、改革ガ必要デアル、制度ヲ能ク整ヘマセストキニ於キマシテハ、タゞ一方ノミニ盡力イタシマシテハ勞多クシテ、サウシテ益ハ少ナイデアラウト思ヒマスカラ、我々ハ十分ニ人心ヲ洗濯スルコトノ必要ヲ考ヘルト同時ニ此案ヲ以テセネバナラスト考ヘルノデアリマス、此都制案ノ趣意ハ先刻モ申ス通り甚ダ簡單ニシテ明瞭デアリマス、東京ト申シマスル此全國ノ首府、政治ノ中心デアリ、經濟ノ中心デアリ、風俗文化ノ中心デアル所ノ此東京ハ、他ノ地方ノ小サイ市都トハ區別ヲ付ケマシテ、現在ノ東京市ト東京府トヲ合シマシテ一ツノ東京都ト云フモノニ致シマシテ、サウシテ之ヲ以テ直チニ中央政府ノ監督ノ下ニ立タシメムト思フノガ改正ノ趣意デアリマス、總テノ此案ニ載ッテ居ルコトハ皆此一點カラ出テ居ルノデアリマシテ、是ダケガ趣意デアリマス、今デハ東京市ト云フモノハ東京府ノ下ニ在リ其上ニ内務大臣ガアルト云フ三階造リニナツテ居リマス、然ルニ此東京市ナルモノハ、東京府トハ名ハ異ッテ居リマスケレドモ、實際ハ東京デアリマシテ、實際ニ於テ一ツモノデアルト言ッテモ宜イ場合ガアルノデアリマス、ソレ故ニ此監督ノ階級ヲ減ラシマシテ様ノ下ニ在ル東京市ヲ座敷ノ上ニ引出スダケノコトデアリマス、總テノ改革ハ此點カラ出テ居リマスル、サウシマスルト云フト多少東京都ノ機關ガ今マデノ最下級ニ在ル市ノ機關ト較ベマシテ權限ニ於テ多少ノ差ヲ見ナケレバナラスト云フ結果ガ起ル、故ニ一方ニ於キマシテハ東京都ニ長官ヲ置キマス、其長官ハ獨リ行政ノ責任ニ當ルモノデアリマシテ、權力ハ頗ル強ク致シテ置カナケレバ、此複雑ナル都會ノ百般ノ事ヲ支配シ、又頗ル權力強キ中央ノ大臣ニ當ルノデアリマスルカラ、其長官ナル者ノ地位モ重ク權力モ重ク責任モ重ク致サネバナラストデアリマス、而シテ東京都ノ參事會ト云フモノ、アルコトハ、今日

ノ東京市ニ參事會ガアル如クデアリマスルガ、東京都ノ參事會ハ専ラ協議ヲスル機關ニ組立テ、アリマスル、總テ皆人ノ言フガ如ク、仕事ヲスルノハ一人ガ宜イ、協議ヲスルトキコソ多數相手が欲シイノデアアル、故ニ東京都ノ參事會ハ相談相手ニスル積リデ、此協議ノ機關ニスル積リデアリマス、頗ル重キ權力ヲ持つテ居ルノデアリマス、併ナガラ今日ノ東京市ノ參事會ハ、參事會ト云フ合議體デアッテ、而シテ行政ノ事務ヲ自ラ擔任シテ居リマスルカラ、事頗ル煩雜ニ互リ宜シクナイト云フコトハ實驗ノ上デ分ッテ居リマスルカラ之ヲ分ケテ行政ノ責任ト、而シテ行政ニ對スル批評及協議、議決機關等ヲ分ケタノデアリマス、此二ツノ機關ヲ分ツト云フコトハ、是ハ全體ニ通ジテ必要ナルコトデアリマシテ、東京都ノ制度ノミデモアリマセヌガ、併シ小サナ團體ニ於キマシテハ、斯ク理論ニ依ッテ區別ヲ付ケマセズトモ、同一ノ機關ガ、行政及協議ノコトヲ兼ネテ行ッテモ差支ガアリマセヌケレドモ、東京都ノ如キ煩雜ナル仕事ヲスベキモノニ至リマシテハ、之ヲ明カニ分ツコトガ必要デアルト思ヒマスル、ソレカラ東京都長官ハ先刻モ申ス通り執行機關デアリマスル、此機關ハ官選ニ依ルモノト云フ考デ此案ガ組立テラレテアリマスル、是ハ東京府知事ノ地位ト東京市長ノ地位トヲ合併シタモノデアリマスル、官選ニスルガ宜イカ、民選ニスルガ宜イカト云フコトハ或ハ世上ニ議論ガアルカモ知レヌガ、ソレ等ノ詳細ノコトニ付イテ議論ガアレバ或ハ委員會等デモ又御話ガ出ルコトデアラウト思ヒマス、唯選舉ト云フコトハ何モ權利デモ何デモナイノデアリマシテ、實ハ權利デナイト申シテハ語弊ガアルカ知レマセヌガ、能ク既得權ハ剝グベカラズト云フコトヲ法律家ガ言ヒマスルノハ、總テ私權ニ付イテ云フ話デアアル、權利ト云フモノハ本人ノ利益ノ爲ニ與ヘラレタルモノヲ多ク指スノデアリマスカラ、或ハ私權等ニ付イテハ既ニ與ヘテアル所ノモノヲ法律ヲ以テ之ヲ又取上グルト云フニ至ッテハ頗ル慎重ヲ要スルノデアリマスルガ、今東京都制ヲ施クニ付イテ、東京都ヲ支配スル者ヲ選舉ニ依テ選ブベキカ、或ハ政府ガ選ブベキカ等ノ問題ハ、全ク制度ノ問題デアッテ權利問題デハナイト云フコトハ、言フマデモナイコトデゴザイマスケレドモ、新聞ナドデソナコトヲ書ク者ガアリマスルカラ一言申シテ置キマス、選舉ト云フノハ實ニ格別重キヲ置クモノデハナイノデアッテ官デ選ブモ民デ選ブモ選舉ト云フコトノ文字ハ幾ラ法律ヲ高尚ニヒネクッテ見マシタ所ガ文字ダケノ意味デアアル、適任者ヲ選ブト云フコトノ外ニ何モ意味ハ無イノデ、

今日ノ情態ニ顧ミマシテ我々ドモハ市民……市會等ニ投票ヲサシタガ都長官ヲ選ブニ適任者ヲ得ラル、デアラウカ、暫ク政府ノ方デ人選シタ方ガ適任者ヲ得ラル、デアラウカ、斯ウ云フ問題デアアル、選舉ソノモノヲ絶對ニ宜イトカ、惡ルイトカ云フ話デハナイノデアリマス、今日ノ情況ニ見テ此案ヲ立テ、アルノデアリマス、今日ノトコロ此時弊ヲ救ヒ改良ヲ施サウト思フ場合ニ當ッテ今ノ市民ニ選舉ヲサシタ方ガ適任者ヲ得ラレルデアラウカ、或ハ大權ニ依ッテ御選擇ニナッタ方ガ適任者ヲ得ラレルデアラウカト云フコトガ問題デアッテソコガ見込ノ話デアリマス、何モ是ガ權利問題デモ何デモナイノデアリマス、其旨ヲドウゾ御承知ヲ願ヒタイ、東京都制案ノ他ニマダ二ツアリマスガ、千代田縣設置ニ關スル法律案、千代田縣ト東京都トノ組合法案、是等ノモノハ附隨ノモノデゴザリマスル、是ハ度々此所デモ説明ノアリマシタ通り、郡部ナルモノガ今アリマシテ、郡部ハ矢張り郡ノ會モアリマス、郡ノ參事會モアリマス、郡ノ財産モアリマシテ、自ラ公ケノ法人體ヲ事實ナシテ居ルモノデアリマスカラ、東京市ト東京府ヲ合シテ東京都ニ致シマシタル結果、其殘ッテ居ル所ノ郡部ヲ獨立ノ千代田縣ニシタイト云フニ過ギナイノデアリマス、又組合法案ハ從來ノ東京市ト東京郡部トデ組合ヲシマシテ、組合ト云フ名前デナクトモ連帶ヲ致シマシテ、事業ヲシテ居ルコト等モアリマス、故ニソレ等ノコトノ現在ノ有様ヲ尙ホ引續イテ行ハシムルニ付イテハ組合法案ヲ提出スルガ必要デアラウト思フカラ、是モ併セテ提出ヲ致シタモノデアリマス、此三案トモ頗ル重要ナル案デゴザイマスル故ニ、昨年ノ例モアリマスカラ、ドウカ十五名ノ委員ヲ議長ニテ御指名ニナリマシテ御審査ヲ御命ジニナルコトヲ希望シマス

○子爵板倉勝達君　チヨット質問シタイ、其質問ノ趣意ト云フノハ他デハナイ、特別市制ヲ廢スノニモ色々ノ議論ガ出マシテ自治體ノ市制ガ施カレタ、然ルニ今日都制ト云フ名ヲ以テ是デ市長ヲ官選ニスルト云フノハ事實自治體ヲ解イテ仕舞フコトニナル、今日ノ市制ニ於テ弊害ガアッテ、ドウシテモ今ノ市制デハ二百五十万ノ市ノ人民ガ不幸ヲ來タス、ソレデ止スガ宜カラウト云フ趣意デアアルカ、其趣意デアアルナラバ將來必ズ自治體ニナル、イツマデモ是ハ此儘ニ置クコトナクシテ市制ト云フ自治體ニナルト云フ御説デアリマスカ、唯今ガ宜クナイトシテ一時此都制ヲ施イテ又人民ガ段々良クナッテ參ッタナラバ其進歩ニ從ッテ又都制ヲ改メテ市制ニナサルト云フ御趣意デアラウカ、

ソコハ私ニ分ラヌ、一體今日ノ弊ハ人ニアルノデ、今ノ人ガイケナイト云フナラバ其人ヲ替ヘテヤレバ又市制ガ立派ニナル、人ニ依ッテ是ハ行ハレルモノデアラウト思フ、都制トナルノハ何ノ爲ニ變ヘルノデアルカ、今日ノ僅カノ弊ヲ以テ變ヘルノデアルカ、万代不朽ノ都制トナルノデアルカ、其點ヲ一ツ伺ヒマス

○穂積八束君 御尋ネノ御要領トスル所ヲ或ハ十分ニ捕ヘテ居ラヌカモ知リマセヌカラ、若シ私ノ申上ゲル所デ御不満足デアリマシタラ、私ノミデハナク澤山此所ニ賛成者同志者ガ居リマスカラ、ソレカラ又重ネテ申上ゲマスガ、私ノ考ヘマシタ所デハ都制法案ト云フハ今日ノ制度ガ今日ノ東京市制ト云フ制度ガ惡ルイカラシテ、其制度ヲ改メタイト云フ點カラ制度ヲ改メルニ制度ヲ以テスルノデアアル、ソレデ此案ハ一時ノモノデアッテ永久ノ積リデハナイカ、又市民ガ進歩ヲスレバ止メルノデアアルコト云フヤウナ御話デアリマシタガ、私ノ考ニハ決シテサウ云フヤウナ考デハナイノデアリマシテ、是ガ今ノ市政ヲ行ッテ見タガ今日ノ人民ニハマダ早イカラ、ソレデ跡戻リヲシテ之ニスルト云フヤウナコトデハ決シテナイノデ、私ドモガ若シ當時政府ニ居ッテ力アル者デアッタナラバ、初メカラ私ハ此制度ヲ施イテ置クノダト思フノデスケレドモ、御互ニサウ自由ニハ出來ナイ、ソレデ決シテ是ハ當分ノ間、戒メノ爲ニスルト云フヤウナ考デハナイノデ、矢張り是ガ立派ナモノデアリマシテ、決シテ是ガ此都ノ制度ヲ施イテ都ノ人民トシテ我々ガ其支配ヲ受ケテ少シモ恥カシクナイ、是ガ立派ナ自治制度デアリマス、何ダカ御言葉ノ中デ斯クナレバ自治制デナクナルトカ、或ハ自治制度ガ跡戻リヲスルカラ、他日自治制ニ復スカト云フヤウナ御話ニ聞キマシタガ、若シサウデアレバ、決シテサウ云フヤウナコトデハアリマセヌ、其他御話ノコトモアリマシタガ、ドウカ唯今ノ答ノ所デ……尙ホ委シイコトハ委員會ナリ第一讀會ノ續ノトキニ御述ベテ願ヒマス

○伯爵柳原義光君 本員ハ政府ニ質問ヲ致シタイノデアリマスガ、唯今穂積博士モ板倉子爵ニ對スル御答辯ノ中ニ御言葉ガアリマシタガ、御互ニ自由ニナラス、併ナガラ政府者デアッタナラバ自由ニナルカノ如キ御言葉デアリマシタガ、私ハ一體此案ニ付イテ疑問ヲ有ッテ居ルノハ昨年アタリハ此案ノ發議者デアッタリ賛成者デアッタル所ノ現内閣ノ平田内務大臣、岡部法相、小松原文相ノ如キモ、此案ノ發議者若クハ賛成者デアッタラウト信ジテ居ルノ

デアリマス、又此所ニ居ラレル一木次官ノ如キハ、タシカ此案ニ依ッテ今日ノ穂積博士ノ役目ヲ御勤メニナッテ御演説ニナッタト心得マス、政府ガ何故ニ此案ヲ發案ヲナサラスカト云フコトガ私が甚ダ了解シ苦シム點デアリマスガ、唯貴族院ニ議席ヲ有ッテ居タトキニハ之ニ賛成シタガ、一タビ自分等ガ政府ニ立ッタトキニハ他ノ人ニ出サセテヤルト云フコトハ私ニハ分ラヌノデアリマス、ナゼ進ンデ政府自ラ御提出ニナラナカッタカト云フコトヲ伺ヒタウゴザイマス

〔政府委員一木喜徳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(一木喜徳郎君) 柳原伯ノ御問ニ御答ヲ申シマス、唯今御述ベノ通り此案ガ昨年提出セラレマシタ際ニハ、今日國務大臣トシテ内閣ニ列シテ居ル人々ノ中ニ賛成モゴザイマスシ、提出者モアリマス、本員自身モ提出者ノ一人デアアル、又唯今御質問ニナッタ柳原伯ノ如キモ御賛成ニナッタ思ッテ居リマス、ソレデ此案ハ先刻穂積君ヨリ御述ベニナリマシタ如ク、貴族院ノ宿論ト認メテ宜イ案デアラウト思ヒマス、本年如何ナル御決議ニナルカハ、ソレハ今後ニ徴サナケレバ分リマセヌケレドモ、兎ニ角數回本院ニ提出セラレマシテ、大多數ノ御賛成ヲ得テ可決ニナッテ居ル所ノ案デアリマス、ソレデ其初メニ於キマシテハ殆ド一人モ異議者ハ無カッタト思ヒマス、昨年ハ多少ノ反對ノ御方モアッタ、又衆議院ニ於キマシテモ東京市ノ制度ヲ改正スルノ必要ヲ認メラレテ居ルコト、見エマシテ、既ニ本年モ東京市制ナルモノヲ提出セラレテ居ル、昨年モ矢張り同ジヤウナ法律案ガ提出ニナリマシテ、昨午ニ於テハ同院ノ可決ヲ經テ居ルヤウナ譯デアリマス、東京市ヲ何トカ改善シナケレバナラヌト云フコトニ於テハ兩院ノ意見モ一致シテ居ルト云ウテ宜シカラウカト思ヒマスガ、此案ハ貴族院ノ宿論デアリマスカラ、多分本年ニ於テモ當院ヘ御提出ガアルコトデアラウト思ヒマス、又衆議院ニモ矢張り東京市ノ制度ノ改善ニ付イテハ意見ガアルノデアリマスカラ、多分本年ニ於テモ提出ニナルコトデアラウト思ッタガ、果シテ提出ニナッタノデアリマス、昨年ニ於キマシテハ此都制案ニ就キマシテ兩院表向ノ交渉ト云フコトデハアリマセヌガ、各市制ノ改善ヲ期スルト云フ點ニ於テハ一致シテ居リナガラ、案ニ異同ガアルガ爲ニ常ニ互ニ其案ヲ固執シテ居ルト云フコトデハ、イツマデモ解決ガ付カナイカラ、何トカ打解ケテ協議ヲシタラ宜カラウト云フコトカラ兩院ヨリ委員ノ名義デハアリマセヌケレドモ三人ヅ、ノ議員ガ出テ協議ヲ致シ

タコトモアツタヤウニ承知イタシテ居リマス、サウ云フヤウニ兩院共ニ市ノ制度ヲ何トカ改善シタイト云フ點ニ於テハ一致シテ居ルノデアリマスカラ、是マデノ歴史ヲ逐ウテ本年ニ於テモ多分都制案ヲ提出ニナルコトデアラウト考ヘマス、果シテ今日提出ニナツタノデアリマス、即チ昨年ノ例ヲ逐ウテ兩院ニ於テ篤ト御協議ニナルコト、思ヒマス、サウ致シマシタラ兩院ノ意見ノ一致ヲ見テ此兩院共ニ一致シテ居ル市制改善ト云フコトニ付イテノ結果ヲ得ルコトガ出來ヤウカト思フノデアリマス、其方ガ詰リ市制ノ改善ヲ圖ルト云フコトニ付イテハ尤モ適當ナ順序ダラウト考ヘテ居ルノデアリマス、併シ先刻、今日内閣ニ立ッテ居ル所ノ大臣ノ名ヲ指シテコレノ人ハ賛成者デ、コレノ人ハ提出者デアツタデハナイカト云フ御話デアリマシタガ、其人ノ考ニ付イテハ茲デ申述ベキ筋デ無カラウト思ヒマスカラ、其人ニ就イテ御志ヲ御タバシ下サルコトヲ希望イタシマス、政府ガ都制案ヲ提出イタシマセヌ所以ハ此都制案ハ貴族院ノ宿論デアツテ兩院ニ於テ各見ル所ヲ以テ市制ノ改善ニ付イテ御骨折ニナツテ居ルコトデアリマスカラ、政府ニ於テハ都制案ヲ出ス出サスト云フコトニ付イテ別ニ詮議ヲ致シマセナンダノデアリマス

○伯爵柳原義光君 然ラバ更ニ質問ヲ致シマスガ、政府ハ此案ニ付イテ御同意デアリマスカ、或ハ御同意デ無イノデアリマスカ、伺ヒタイノデアリマス

〔政府委員一木喜徳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(一木喜徳郎君) 本案ガ幸ニ兩院ノ意見ノ一致ヲ見マスニ於キマシテハ政府ニ於テハ異議ハゴザイマセヌ

○議長(公爵德川家達君) 穂積君ニ伺ヒマスガ、此演壇デ提出ノ理由ヲ御述ベニナリマシタアトデ、此案ノ特別委員ハ十五名ニシテ議長指名ニシタイト云フコトヲ御申述ベニナツタヤウニ考ヘマスガ、確メテ置キマス

○穂積八束君 サウデゴザイマス

○男爵田健治郎君 賛成

○南郷茂光君 賛成

○伊澤修二君 賛成

○下條正雄君 賛成

○男爵松平正直君 賛成

○議長(公爵德川家達君) 穂積君ノ十五名ノ特別委員ニ付託シ其委員ハ議長

ノ指名ト云フ說ニ御異存ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ請願ノ會議ニ移リマスガ、此前ノ本會議ノ節ニ曾我子爵ヨリ請願ニ關スル質問ヲ請願委員長ニ致サレマシタ、トコロガ委員長ガ此席ニ居ラレマセヌノデ、質問ノ趣意ヲ議長カラ委員長ニ御傳ヘヲ致スコトヲ曾我子爵ニ申上ゲテ置キマシタ、本日ハ三宅請願委員長ガ著席ヲセラレテ居リマスカラ此際、三宅請願委員長カラ過日曾我子爵ノ御質問ニ對スル御答辯ノアルコトヲ議長ハ望ミマス、三宅君演壇ニ御出デテ願ヒマセウ

〔三宅秀君演壇ニ登ル〕

○三宅秀君 過日ハチヨット本員ガ退席ヲ致シテ居リマスル際ニ、曾我子爵カラ彼ノ競馬善後策急施ノ請願ニ付キマシテ、ドウナツテ居ルカト云フ御質問ガ出マシタサウデアリマス、本員ガ在席イタシテ居リマスレバ即答ヲ申上ゲル筈デゴザイマシタガ、ツイ一兩日御答ガ延ビマシタノハ甚ダ申譯ガナイ次第デアリマス、是ヨリ彼ノ競馬請願ニ付キマシテ、ドウナツテ居ルカト云フコトヲ御答辯イタシマスルガ、簡單ニ申シマスレバ、去ル八日コ、ノ日程ニ上ボリマシタノヲ再調査ノ意味ヲ以テ委員會ヘ取戻シテ居リマスノデ、丁度翌日一日ヲ置キマシテ十日ガ請願委員會ノ定日デゴザイマスルカラ、請願委員會ノ定日ヲ機ト致シマシテ委員長ハ之ヲ再議ニ付シマシタノデアリマス、其節ニ調査ヲ要セナイト云フ見込ノ委員ハ調査ヲスルニ及ブマイカラ今日採擇力不採擇カト云フコトヲ即決シテ宜カラウ、斯ウ云フ委員モ數名ゴザイマシタ、又其反對ノ側ノ委員ハ再調査ト云フコトデ戻シテ參ッタノデアルカラ慎重ナル調査ヲ致サナケレバナラス、ソレニハ今日即決ト云フコトハ出來スカラシテ尙ホ數日ノ日子ヲ置イテ、サウシテ慎重ニ調査ヲシヤウ、斯ウ云フ論者ガゴザイマシテ、遂ニ即決ノ意見ヲ有ッテ居リマスル方ノ委員ガ多數ヲ占メルコトガ出來マセヌ爲ニ、今日マデ審査中ニナツテ居リマス、ソコデ委員長ハ會期モ切迫シテ居リマスルシ、又谷子爵カラノ御忠告モゴザイマシタカラ成ルベク此請願ハ早く調査ヲ致シタイ考デゴザイマスルケレドモ、唯今ノヤウナ結果ニナリマシテゴザイマスカラ、次ノ會ノ日ニハ是非之ヲ問題ニシテ議シマスカラ、ドウゾソレマデ調査ヲ必要ト認メラル、諸君ハ十分ニ御

調査ヲナサツテ下サレタイ、其次ノ會ト申シマスルノハ來ル十七日ガ水曜日デゴザイマシテ、是ハ豫ネテノ約束通り請願委員會ヲ開ク日デアリマスカ
ラ、其時ヲ約シマシテ、其時マデニ十分御調査ヲ爲サツテ下サルヤウニト云
フコトニナツテ即チ今日ハ審議中ノ有様デアリマス、是ダケ御答ヲ致シマス

○男爵伊達宗敦君 唯今ノ請願委員長三宅君ノ御報告ハ其半バツ領シマシタ
ガ半バツ分ラナイ、依ッテ更ニ質問ヲ致シマス、御迷惑デハアリマセウガ御
辯解ヲ願ヒマス、ソレハ八日ノ本議場ノ日程ニ載リマシタ唯今述ベラレマシ
タ競馬ノ善後策急施ノ請願、是ガ日程ニ載ッテ居ッタノデアリマス、然ルニ委
員長即チアナタガ尙ホ調査スル所ガアル、調査不十分ノ所ガアルカラ一應日
程カラ取下ゲテ更ニ調査シテ出シタイト云フコトヲ御述ベニナツタト私ハ記
憶イタシテ居ルノデアリマス、ソレニ對シテ谷子爵カラ何ノ點ニ就イテ調査
ヲシナケレバナラスノカ其理由ガ分ラヌト云フ御問ヒガアッタラ唯分ラヌコ
トガアルカラト云フノデ日程カラ取下ゲラレタノデアリマス、然ルニ唯今ノ
報告ヲ承ルト、去ル八日……間違ヒマシタ、十日ニ請願委員會ヲ開イテ相談
ヲシタ所ガ、即決スベキモノデアルカ、サウデナイカ、或ハ採擇スベキモノ
デアルヤ否ヤト云フコトヲ議シタ所ガ、十分其事ガ纏マラナカッタカラ今日
マデ報告ヲスルニ至ラヌト云フ御報告デアリマシタ、ソコガ本員ノ解シ難イ
所デアアル、何トナレバ委員長ハ過日八日ノ會議ニ於テ尙ホ調査スル所ガア
ル、調査不十分ノ廉ガアルカラト云フノデ、此議場カラ取下ゲラレタノデハ
アリマセスカ、然ラバ更ニ委員會ニ於テ調査シヤウカ、シマイカト云フコト
ヲ審議スル必要ハ無い、無論直チニ調査ニ著手シナケレバナラヌト考ヘルノ
デアリマス、尤モ請願委員會ノ内容ハ少シク承リ及ンダコトモアリマスカ、
ソレハ申述ベマセスカ、ドウ云フ譯デアルカ、其點ヲ承リタイ

○三宅秀君 御答ヲ致シマス、調査ヲ必要トシナイ所ノ委員カラ、更ニ調査
スル必要ハ無いト認メルカラ採擇不採擇ヲ即決シタラ宜カラウト云フ論ガア
リマシタノデ、尤モ多數ノ委員カラ調査不十分デ十分ニ遂ゲナイ所ガアルカ
ラ延期ヲシテ再調査ニ付シタイト云フ申立ニ依ッテ、委員長ノ資格デ當議場
カラ取下ゲタト云フ譯デアリマス、ソレ故ニ果シテ調査ヲスル、慎重ニ調査
ヲスルニハ若干ノ時日ヲ要シマスカラ、今日マデ猶ホ調査中ニナツテ居リマ
ス、ソレ故ニ此次ノ例會ノ日ヲ期シテ此日ニハ何トカ決シタイト存ズルカラ、
ドウゾソレマデニ調査ニナリタイト云フ御方ハ十分ニ御調査ヲ爲サツテ下サ

ルヤウニト云フコトニナツテ居リマス、今日デハサウ云フ情態デアリマス、
御分リデシタカ

○市川文藏君 請願委員長ニ質問ヲ致シマス、私モ委員ノ一人デゴザイマス
ガ、唯今ノ委員長ノ報告ニ依リマスルト、去ル八日ノ議場ニ於キマシテ本案ヲ
撤回シマシタノハ、多數ノ委員カラ再調査ノ必要ガアルト云フコトデアッタカ
ラ、サウシタト云フ御話デゴザイマスガ、私ハ未ダ昨今ノコトデ斯ウ云フ場合
ノ例ヲ存ジマセスデゴザイマスガ、其當時ノ考ヘデハ委員長ニハサウ云フ權
利ガアルコト、存ジテ居リマシタガ、ドウモ自分デ考ヘテ見マスルノニ、一旦
請願委員ノ總會デ可決シテ議長ノ御手許マデ提出シタモノナラ、ソレヲ取戻
スニハ矢張り相當ノ委員會ヲ開イテ議決シタ上デナケレバナラヌト思ハレマ
ス、然ルニ私等ニハサウ云フ御相談ハゴザイマセス、是ハ私バカリデハゴザ
イマセス、委員中ノ一人タル眞田男爵モ御承知ガ無いト云フコトデゴザイマ
ス、ソレカラ森委員モ御承知ガ無いト云フコトデアリマスカ、一體サウ云フ
權利ガ委員長ニアルヤ否ヤ、他日ノ參考ノ爲ニ伺ッテ置キマス

○三宅秀君 御答ヲ致シマス、ソレハ多數ノ委員ガ更ニ調査ヲ要スルト云フ
コトヲ申出デラレタト云フノハ、各分科ノ主査ガ代ッテ委員長ヘ御申出デニ
ナリマシタノデゴザイマス、各分科ノ主査ガ其分科内ノ委員ノ多數カラ申出
デガアッタレバコソ御取次ニナツタモノト思ヒマスカラ、ソレヲ取纏メテ、委
員長ガ代表シテ此議場ヘ申立テタダケデ、決シテ委員長ガ自己ノ考ヲ以テ皆
サンニ御諮リヲ致サズニ取下ゲタ譯デハナイト心得テ居リマス、サウ云フコ
トニ御承知ヲ願ヒマス

○久保市三郎君 私ハ委員長ニ御忠告申上ゲマス、委員長ハ伊達男爵ノ質問
ニ答ヘテ今日ハ猶ホ調査中デアルト言ハレマシタガ、調査ト云フ名目ノ内ニ
……ケレドモ又ソレデハ今日マデ本會議ニ提出ニ至ラヌ事情ヲ報告スルノニ
其手順ヲ盡サス所ガアルト思ヒマス、モウ少シ實際、請願委員長カラ今日マ
デ議長ニ報告ニ至ラヌ内容ヲ寧ロ正當ニ答辯セラレタラ宜カラウト思ヒマ
ス、ソレダケ委員長ニ御忠告申シマス

○三宅秀君 久保君ニ申上ゲマスガ、ソレホド委シク實況ヲ御承知ナラ、委
員長ニ代ッテ久保君カラ御報告ヲ願ヒタイト思ヒマス、委員長ハ先刻……
〔久保市三郎君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵徳川家達君) マダ三宅君ガ發言中デゴザイマス

○三宅秀君 先刻ノデ曾我子爵ヘノ御答ニハ十分心得テ居リマス、若シ其上ニモ十分ニ曾我子爵ノ御問ニ御答ヘナサリタケレバ實況ヲ御承知ノ久保君カラ御答ヘニナルコトヲ私ハ望ミマス

○久保市三郎君 委員會ノ内容ハ……委員長カラ私ニ内容ヲ御話シ申スヤウニト云フコトデアリマシタガ、是ハ委員長ガ其當然ノ任務ヲ盡サナイモノト思ヒマス、現ニ此前ニ此問題ガ出マシタトキニ、委員長ハ此議場ニ出テ居ラレナイ、副委員長ハ出テ居ラレマシタガ、答辯ヲスル意思ガ無イト云フコトデ何モ御話ニナラナカッタノデアリマス、委員長ノ今言ハレルガ如ク他ノ委員カラ御話申シテモ宜イ譯ナラバ此前ノ本會ニ於テ申シテモ宜カッタノデアリマス、請願委員會ニ委員長副委員長ヲ決メテアル以上ハ、其委員會ノ内容ハ委員長或ハ副委員長カラ本會ニ向ッテ報告ヲスルノガ其職責カト思ヒマス、現ニ今日ハ委員長ガチャント出席ニナッテ居リ、内容モ委シク知ッテ居ラル、ノデアアルカラ、此本會議ニ於テ質問ガアッタラ正當ニ請願委員會ノ内容ヲ御話シ申シテ、サウシテ今日マデ報告ニ至ラヌト云フコトヲ申サレタラ宜カラウト思ヒマス

○子爵曾我祐準君 是ハ初發、私ノ質問ガ火元ニナッタノデアリマスカラ、一言申述べタウゴザイマス、詰リ本案ヲ速ニ決シタイト云フノガ私ノ質問ノ趣意デアリマスカラ、唯今委員長ノ仰セニハ七日ト十七日ニ議スルト云フコトデアリマスカラ、急ギマスカラ初メノ私ドモノ質問ノ趣意ニ對セラレテ三日バカリニ御議決ニナッテ報告ニナラムコトヲ希望シマス、ドウカ皆サン御賛成ヲ願ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 曾我子爵ニ伺ヒマスガ、三日バカリト云フト……

○子爵曾我祐準君 三日デ宜シウゴザイマス

○議長(公爵德川家達君) 本日カラ三日間デスカ

○子爵曾我祐準君 左様デゴザイマス

○男爵伊達宗敦君 曾我子爵ニ賛成ハ致シマスガ、三日バカリデハナイ、本員ハ明後十五日中ニ御報告アルヤウニ、斯ウ云フコトニ致シタイト存ジマス、願ハクハ曾我子爵ニ於テモ御同意アラムコトヲ希望シマス、之ヲ御相談イタシマス

○子爵曾我祐準君 即チ三日デアリマス

〔賛成ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵德川家達君) 伊達男爵ニ伺ヒマスガ、本月十五日中ニ唯今ノ問

題トナッテ居ル請願ヲ此議場ニ報告スル、ソレデ宜シウゴザイマスカ

○男爵伊達宗敦君 宜シウゴザイマス

○議長(公爵德川家達君) 伊達男爵ノ動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十九、樺太航路開始ノ請願、第二十、大湊鐵道速成ノ請願、第二十一、煙草專賣法中葉數査定ニ關スル規定廢止ノ請願、第二十二、廣島江津間鐵道速成ニ關スル請願、第二十三、小學校正教員官設鐵道無賃乘車ノ請願、第二十四、山陰縱貫鐵道速成ノ請願、第二十五、葉煙草葉數査定廢止並國立煙草試驗場設置ノ請願、第二十六、甲府岩淵間鐵道速成ノ請願、會議

〔左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

意見書案

樺太航路開始ノ件

青森商業會議所會頭樋口喜輔呈出

右ノ請願ハ南樺太ノ我カ版圖ニ歸セシヨリ以來青森ト同島トノ間ニ旅客及漁夫ノ往來頻繁トナリ隨テ食料其ノ他必要品ノ輸送夥シキニ至リタルモ交通機關ノ連絡ヲ關キ不便尠カラサルヲ以テ政府ハ速ニ兩地間ニ定期航路ヲ開始セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十二年 月 日

貴族院議長 公爵德川家達

內閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

大湊鐵道速成ノ件

青森縣下北郡田名部町平民農西山廣外百九十九名呈出

右ノ請願ハ青森縣下北郡大湊ハ我カ海陸ノ要衝ヲ扼シ又同郡ハ水陸ノ物產豐饒ナレトモ運輸機關ノ闕如スル爲之ヲ他方面ニ搬出スルノ便ヲ闕キ空シ

ク僻隅ニ孤立スルノ有様ナルニ依リ國防上及經濟上ノ關係ニ鑑ミ奥羽線中野邊地附近ヨリ分岐シテ大湊ニ至ル鐵道ヲ第一期線ト爲シ之ヲ急設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十二年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

煙草專賣法中葉數査定ニ關スル規定廢止ノ件

神奈川縣中郡秦野町農大野與五右工門外三百五十二名呈出

右ノ請願ハ煙草專賣法中煙草葉數査定ニ關スル規定ハ收納上ノ犯則者ヲ拘束セムトシテ反テ誠實ナル一般耕作人ヲ過度ニ牽束スルノミナラス査定上ノ手數繁苛ニシテ煙草耕作ノ振興ヲ害シ且一般農業ニ餘殃ヲ及ホスノ弊アルヲ以テ之ヲ改メテ量目査定ノ法ヲ採用セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十二年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

廣島江津間鐵道速成ニ關スル件

廣島縣雙三郡三次町長岡純一外七十五名呈出

右ノ請願ハ廣島江津間ノ鐵道ハ沿道地方ニ於ケル交通運輸ノ利便ヲ開發スルニ必要ナルノミナラス國防上及對外貿易上最緊要ナルヲ以テ之ヲ第一期線ニ繰上ケ速成セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十二年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

小學校正教員官設鐵道無賃乘車ノ件

茨城縣北相馬郡高井村平民農中久木周平外十二名呈出

右ノ請願ハ小學校教員ハ兒童ヲ教育シ其ノ智能ヲ啓發スルノ重任ヲ荷フモノナルヲ以テ學術ノ講習又ハ實地ノ觀察ニ關シ旅行ヲ爲スノ必要アルハ言ヲ俟タスト雖菲薄ナル俸給ノ到底之カ費用ヲ支フル能ハサル所ナルカ故ニ尋常科正教員並本科正教員ニシテ其ノ筋ノ證明ヲ得テ公務上ノ旅行ヲナストキハ之ニ對シテ官設鐵道ノ無賃乘車ヲ許可セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十二年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

山陰縱貫鐵道速成ノ件

山口縣吉敷郡山口町長八木宗十郎外二十名呈出

右ノ請願ハ山陰縱貫鐵道中今市ヨリ山口町ヲ經テ小郡ニ達スル線路ハ石見一帯ノ地ヲシテ南海岸ニ連接セシメ行政軍事殖産等ノ利便ヲ増進シ國家ノ發展ヲ期スルニ於テ頗緊要ノモノナルモ第二期線ニ屬シ起工ノ時期未タ明ナラサルハ最遺憾ナルヲ以テ速ニ工事施行期ヲ定メ且今市小郡ノ兩端ヨリ起工セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十二年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

葉煙草葉數査定廢止並國立煙草試驗場設置ノ件

栃木縣大山田煙草生産同業組合組長青柳與平呈出

右ノ請願ハ煙草專賣法中煙草葉數査定ノ制ハ煙草ノ耕作者ヲシテ往往其ノ採收ノ時期ヲ誤ラシメ爲ニ其ノ品質ヲ害シ量目ヲ減シ之ニ多大ノ損失ヲ被ラシムルノミナラス國家ノ經濟上亦不利ナルヲ以テ之ヲ廢止シ尙全國有數ノ產地タル栃木縣下ニ國立煙草試驗場若ハ支場ヲ設置シ以テ其ノ耕種採葉ノ方法ヲ講シ斯業ノ改良發達ニ資セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十二年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

意見書案

甲府岩淵間鐵道速成ノ件

靜岡縣靜岡市新通一丁目士族醬油釀造米穀商磯野新藏外十二名呈出
右ノ請願ハ甲府岩淵間ノ鐵道ハ本州中部ヲ橫斷シテ東海道ト中山北陸兩道トノ連絡ヲ完カラシメ國防上及地方産業ノ振興上緊要ナルノミナラス近時清水港ノ發達ハ益之カ急設ヲ促スヲ以テ豫定ノ工事ヲ最近年度ニ繰上ケ速ニ之ヲ敷設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十二年 月 日

貴族院議長 公爵德川 家達

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

○田中芳男君 請願委員長ニ質問イタシタウゴザイマスガ……

○議長(公爵德川家達君) ドノ請願ニ付イテデスカ

○田中芳男君 二十一ト二十五ニ付キマシテ……

○議長(公爵德川家達君) 宜シウゴザイマス

○田中芳男君 御迷惑ナガラ伺ヒマス、此煙草ノコトハ耕作者ガ收納所ヘ納メテ參ッタトキニ葉數デ檢査ヲサレテハ困ルカラ荷物ニ造ッタマ、目方デ引取ッテ吳レイト云フコトノヤウデアリマス、請願書ハ二通デアルガ其實ハ殆ド同ジヤウデアリマスガ、成ルホド耕作者ニ取ッテハ葉ヲ一枚ヅ、改メラレテハ中ニ屑ナドガ這入ッテ居ッタトキニ、ソレヲハネラレテハ大キニ困難

ダラウト思ヒマスガ、荷造リノマ、貫目デ受取ルト云フコトニナレバ、中ニ疵物ヤ木ノ屑ガアッテハ、貫目ノ儘デ受取ルト云フコトニナルト、其受取ッタ方デ甚タ不都合デ、專賣局ノ方デハ損耗ヲセンナラスコトガアラウト思ヒマスガ、是ハ專賣局ヘデモ能ク御相談ニナッタコトガアリマセウカ、若シ然ラザルトキハ甚ダ不都合ノ案ノヤウニ思ヒマスガ、一應御取調ニナリマシタコトヲ承リタウゴザイマス

○三宅秀君 田中君ノ御問ハ能ク聴取レマセヌデアリマシタガ、二十一ト二十五ト詰リ同様ナ請願デゴザイマス、此二點ニ付イテノ御質問ト思ヒマス

○田中芳男君 左様デゴザイマス

○三宅秀君 二十五ノ方ハ少シ違ッテ居リマス、國立ノ煙草試驗場設置ト云フコトガ籠ッテ居リマスノデ、其他ノ半分ハ第二十一ト殆ド同ジヤウナ請願デアリマス、此度ハ請願委員會ニ於キマシテ政府委員、專賣局等ノ人カラハ何モ承ッテ居リマセス、此請願ハ隨分度々出マス所ノ請願デゴザイマシテ、耕作者ノ爲ニハ餘ホド迷惑ナ事柄デアル様子デゴザイマス、ソコデ政府委員ニ承ッテ見マスト全ク之ヲ廢ス譯ニハ行カナイ、葉ノ數デ行ク方ノ檢査ハ必要デアル、又乾カシタ方ノ數量デ行ク方法モ必要デアル、ガ段々迷惑ノ方ノ生葉デ數ヘルコトハ區域ヲ狹メテ行クト云フ方針デアルガ全廢スルト云フ譯ニハ行カスト云フ説明ヲ政府ノ方デハ申シテ居リマス、併ナガラ耕作者ノ苦痛ニナリマスコトデ檢査ヲ經ナイ中ニ嵐ヲ食ッテ十分發生シタ所ノ煙草ヲ悉ク失ッテ仕舞フト云フガ如キハ如何ニモ氣ノ毒ノ様ニ考ヘマスカラ、是ハ兎モ角モ參考ノ爲ニ政府ニ移スベシトシテ斯様ナ譯デ採擇サレテ居リマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程ノ第十九ヨリ第二十六マデノ請願ハ全部

請願委員長ノ報告通り採擇ヲ致シテ政府ニ送付シテ御異存ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 是ニテ本日ノ議事ハ終リマシタ、御委託ニナリマシタ特別委員ノ選定ヲ致シマシタカラ、其氏名ヲ書記官長ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

〔太田書記官朗讀〕

明治四十一年法律第九號中改正法律案特別委員

子爵野宮 定穀君 子爵本莊 壽巨君 男爵辻 新次君
男爵船越 衛君 男爵金子 有卿君 男爵杉溪 言長君

山田 春三君 伊澤 修二君 淺野 長太郎君

北海道拓殖銀行法中改正法律案特別委員

伯爵柳原 義光君 子爵稻垣 太祥君 子爵青木 信光君

小牧 昌業君 男爵千秋 季隆君 男爵本多 政以君

富田 鐵之助君 加藤 宇兵衛君 伊藤 長次郎君

軌道ノ抵當ニ關スル法律案外一件特別委員

伯爵德川 達孝君 男爵北垣 國道君 子爵青山 幸宜君

子爵鳥居 忠文君 男爵田 健治郎君 千坂 高雅君

千頭 清臣君 室田 義文君 岡谷 惣助君

立木ニ關スル法律案特別委員

伯爵柳澤 保惠君 子爵前田 利定君 子爵松平 親信君

村田 保君 男爵武井 守正君 谷森 眞男君

藤田 四郎君 富井 政章君 岡野 敬次郎君

會計法中改正法律案特別委員

伯爵松本 宗隆君 子爵高木 正善君 子爵水野 直君

長谷部 辰連君 平山 成信君 男爵高千穂 宣麿君

男爵中島 久万吉君 中島 永元君 杉下 太郎右衛門君

東京都制案外二件特別委員

侯爵德川 賴倫君 伯爵松平 賴壽君 子爵堤 功長君

子爵梅小路 定行君 男爵松平 正直君 男爵園田 安賢君

男爵關 義臣君 德久 恆範君 男爵南 光利君

男爵南岩倉 具威君 西村 亮吉君 南郷 茂光君

穗積 八束君 辰巳 檜太郎君 宮崎喜久太郎君

○議長(公爵德川家達君) 明後日ノ議事日程ハ本院彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、今日ハ是デ散會イタシマス

午後零時三十九分散會